科目名	科目担当代表教員		ページ数
研究方法論A	青　晴海	・・・・・・・・	3
研究方法論A	木村　俊昭	・・・・・・・・	8
研究方法論A	熊野　稔	・・・・・・・・	13
研究方法論A	小西　正人	・・・・・・・・	18
研究方法論A	Richardson Peter	・・・・・・・・	23
研究方法論A	高橋　保夫	・・・・・・・・	28
研究方法論A	巫　靚	・・・・・・・・	33
研究方法論A	魯　諍	・・・・・・・・	38
研究方法論A	渡部　淳	・・・・・・・・	43
研究方法論B	青　晴海	・・・・・・・・	48
研究方法論B	木村　俊昭	・・・・・・・・	53
研究方法論B	熊野　稔	・・・・・・・・	58
研究方法論B	小西　正人	・・・・・・・・	63
研究方法論B	Richardson Peter	・・・・・・・・	68
研究方法論B	高橋　保夫	・・・・・・・・	73
研究方法論B	巫　靚	・・・・・・・・	78
研究方法論B	魯　諍	・・・・・・・・	83
研究方法論B	渡部　淳	・・・・・・・・	88
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究Ⅰ	岡本　佐智子	・・・・・・・・	93
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究Ⅱ	岡本　佐智子	・・・・・・・・	98
国際関係論特別研究Ⅰ	青　晴海	・・・・・・・・	103
国際関係論特別研究Ⅱ	青　晴海	・・・・・・・・	108
地域社会特別研究Ⅰ	小西　正人	・・・・・・・・	113
英語学特殊研究	高橋　保夫	・・・・・・・・	118
英米言語文化特殊研究Ⅰ	Richardson Peter	・・・・・・・・	123
英米言語文化特殊研究Ⅱ	渡部　淳	・・・・・・・・	128
英語文献翻訳実践演習A	高橋　保夫	・・・・・・・・	133
英語文献翻訳実践演習B	渡部　淳	・・・・・・・・	138
中国学特殊研究	魯　諍	・・・・・・・・	143
中日言語文化特別演習Ⅰ	巫　靚	・・・・・・・・	148
中日言語文化特別演習Ⅱ	魯　諍	・・・・・・・・	153
中国語文献翻訳実践演習A	巫　靚	・・・・・・・・	158
中国語文献翻訳実践演習B	巫　靚	・・・・・・・・	163
日本語学特殊研究Ⅰ	小西　正人	・・・・・・・・	168
日本語学特殊研究Ⅱ	小西　正人	・・・・・・・・	173
日本言語文化特別研究	小西　正人	・・・・・・・・	178
日本語教育学研究Ⅰ	小西　正人	・・・・・・・・	183
日本語教育学研究Ⅱ	岡本　佐智子	・・・・・・・・	188
日本語教育学演習Ⅱ	岡本　佐智子	・・・・・・・・	193
地域活性化システム論	木村　俊昭	・・・・・・・・	198
地域ビジネス特論Ⅰ	熊野　稔	・・・・・・・・	203

地域ビジネス特論Ⅱ　熊野　稔　・・・・・・・・・　208
地域創生・SDGs特論Ⅰ　熊野　稔　・・・・・・・・・　213
地域創生・SDGs特論Ⅱ　熊野　稔　・・・・・・・・・　218

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論A（青　晴海）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	青　晴海						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

指導教員は約30年にわたる国際協力業務の経験がある教員である。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第2回	論文とは何でないか(1)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第3回	論文とは何でないか(2)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのもであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第4回	論文のつくりかた：論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験)これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目嗽石」と署名したのか」。)これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		

第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から)これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体 感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第8回	インタビューの記録:録音と書き起こし(トランスクリプト) リサーチクエスチョンの再検討 関連する文献を探す，読む，整理する	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第9回	データの分析1:データの整理 ファイリングとデータベース	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第10回	データの分析2:コーディング オープンコーディングと軸足コーディング	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		

第11回	データの分析3：概念化 カテゴリー間の関係を見つける	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第12回	論文を書く1：データの呈示と解釈	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第13回	3　　論文を書く2：問題と方法 リサーチクエスチョンに答えているか	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第14回	質的研究の評価基準	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		
第15回	まとめ	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	青　晴海		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度（確認小テストを含む）40%、演習課題60%。
その他	0	

教科書

『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版
『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋
その他、授業中に適宜指示する。

参考文献

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社

No	著者名 (Author/Editor)	書籍名 (Title)	出版社 (Publisher)	出版年 (Date)	ISBN/ISSN
1	Yin,R	Qualitative research from start to finish	Guilford	2015	1462517978
2	佐藤郁哉	『フィールドワークの技法・問いを育てる仮説をきたえる』	新曜社	2002	4788507889

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論A（木村　俊昭）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村　俊昭						

授業の位置づけ

修士論文のリサーチクエスチョン、テーマ設定と研究方法等を学び、習い、問い立てを十分に身に付けるもの。

授業の概要

地域創生・SDGsに関するテーマの課題整理、先行研究、仮説を立て、その立証方法を考え、いかに新規性ある研究開発、修士論文を執筆するか、指導するもの。

到達目標

地域創生・SDGsに関する自らのテーマに基づき、修士論文を執筆するもの。

授業の方法

対面による対話重視の講義とする。

ICT活用

参考資料等はすべてオンライン、ペーパレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席すること。

実務経験のある教員の教育内容

これまで、修士論文、博士論文の作成を主査指導してきた実績上、テーマの設定から先行研究の整理、仮説の立て方、最適な立証方法、全体のストーリー性等を指導するもの。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の講義時に質疑の時間、対話の時間を設ける、また、講義時、適宜、理解度を確認する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義全体の流れ説明、各自テーマ・概要を発表、指導アドバイス、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第2回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第3回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第4回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第5回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		

第6回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第7回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第8回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第9回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第10回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		

第11回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第12回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第13回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第14回	研究開発、修士論文作成に関する講義と対話	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第15回	各自のテーマ・概要の発表、助言アドバイス、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	対話状況や発表を総合的に評価するもの。
その他	0	

教科書

「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭（東京農業大学出版会）

参考文献

随時、講義時に紹介するもの。

履修条件・留意事項等

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論A（熊野　稔）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	熊野　稔						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		
第2回	論文とは何でないか(1)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		
第3回	論文とは何でないか(2)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのもであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		
第4回	論文のつくりかた：論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目嗽石」と署名したのか」。) これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		

第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとで アウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	熊野　稔		

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。（V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫）	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	熊野　稔		
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。（早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に―」） これにより「文法知識」だけでなく、「問い－主張－論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	熊野　稔		
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	熊野　稔		
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	熊野　稔		
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	熊野　稔		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度（確認小テストを含む）40％、演習課題60％。
その他	0	

教科書

『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版
『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋
その他、授業中に適宜指示する。

参考文献

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論A（小西　正人）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第2回	論文とは何でないか(1)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第3回	論文とは何でないか(2)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのもであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第4回	論文のつくりかた：論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目嗽石」と署名したのか」。) これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		

第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとで アウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	小西　正人		

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。（V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫）	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	小西　正人		
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。（早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に―」） これにより「文法知識」だけでなく、「問い－主張－論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	小西　正人		
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	小西　正人		
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	小西　正人		
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	小西　正人		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度（確認小テストを含む）40％、演習課題60％。
その他	0	

教科書

『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版
『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋
その他、授業中に適宜指示する。

参考文献

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論A（Richardson Peter）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	Richardson Peter						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第2回	論文とは何でないか(1):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第3回	論文とは何でないか(2):教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのもであるかということを知る。	『新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第4回	論文のつくりかた:論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目嗽石」と署名したのか」。) これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		

第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとで アウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	Richardson Peter		

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。（V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫）	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	Richardson Peter		
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。（早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に―」） これにより「文法知識」だけでなく、「問い－主張－論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	Richardson Peter		
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	Richardson Peter		
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	Richardson Peter		
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	Richardson Peter		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度（確認小テストを含む）40％、演習課題60％。
その他	0	

教科書

授業中に適宜指示する。

参考文献

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論A（高橋　保夫）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第2回	論文とは何でないか(1)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第3回	論文とは何でないか(2)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのもであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第4回	論文のつくりかた：論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目嗽石」と署名したのか」。) これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		

第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとで アウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	高橋　保夫		

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。（V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫）	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	高橋　保夫		
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。（早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に―」） これにより「文法知識」だけでなく、「問い－主張－論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	高橋　保夫		
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	高橋　保夫		
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	高橋　保夫		
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	高橋　保夫		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度（確認小テストを含む）40％、演習課題60％。
その他	0	

教科書

『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版
『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋
その他、授業中に適宜指示する。

参考文献

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論A（巫　覩）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	巫　覩						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第2回	論文とは何でないか(1):戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学習する。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第3回	論文とは何でないか(2):『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学習する。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第4回	『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。論証の方法(1)論証の方法のうち、「自然科学的方法」について具体的に学習する。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第5回	論証の方法(2)論証の方法のうち、「人文科学的方法」について具体的に学習する。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		

第6回	論証の方法(3)論証の方法のうち、「哲学的方法」について具体的に学ぶ。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第7回	論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学習する。	山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第8回	歴史学方法論①総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第9回	歴史学実践論①:総論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第10回	歴史学方法論②文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		

第11回	歴史学実践論②:文献史学	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第12回	歴史学方法論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第13回	歴史学実践論③:口述史	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第14回	歴史学方法論④:考古学・文献史学(前近代)	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		
第15回	郷土史研究論	学習予定の文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)。	授業内容を整理し、確認する(90分)。
担当教員	巫　覩		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度（確認小テストを含む）40％、演習課題60％。
その他	0	

教科書

『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版
『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋
その他、授業中に適宜指示する。

参考文献

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論A（魯　諍）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第2回	論文とは何でないか(1)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第3回	論文とは何でないか(2)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのもであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第4回	論文のつくりかた：論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目嗽石」と署名したのか」。) これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		

第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとで アウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	魯　諍		

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。（V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫）	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	魯　諍		
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。（早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に―」） これにより「文法知識」だけでなく、「問い－主張－論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	魯　諍		
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	魯　諍		
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	魯　諍		
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	魯　諍		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度（確認小テストを含む）40％、演習課題60％。
その他	0	

教科書

『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版
『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋
その他、授業中に適宜指示する。

参考文献

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論A（渡部　淳）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡部　淳						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論B」に続く科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この授業の進めかた、評価の方法、教科書の使いかたなどの説明を行う。 論文はエッセイや小説のようなものではなく、家を建てるように骨組から作っていき、肉付けをする方法で書くことを伝える。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		
第2回	論文とは何でないか(1)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを切々と説く。 戸田山和久『最新版 論文の教室』第1章～第3章 論文の形式は「問い」「主張」「論証」という3形式で成り立っていることを学修する。 また論文の「問い」としてどのようなものが適切かということについて理解することができる。	『最新版 論文の教室』第1章～第3章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		
第3回	論文とは何でないか(2)：教科書の作文ダメ夫君のダメレポートの例を通して、いかにそれがダメかを延々と説く。 『最新版 論文の教室』第4章～第5章 論文の構成(タイトル部分～参考文献)およびアウトラインの仕上げかたについて学修する。 これらの作業を通して、ダメ論文がいかなるのもであるかということを知る。	『最新版 論文の教室』第4章～第5章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		
第4回	論文のつくりかた：論文は先頭から順に書くものではないことを指導する。 『最新版 論文の教室』第6章 よい「論証」について学ぶ。 論証の方法(1) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。この回はおもに「自然科学的方法」について。(物理学模擬実験) これにより「自然科学的に考える」ことができるようになる。	『最新版 論文の教室』第6章を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		
第5回	論証の方法(2) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学修する。 この回はおもに「人文学的方法」について。(シャーロックホームズの推理。小池清治2001「夏目漱石はなぜ「夏目嗽石」と署名したのか」。) これにより「人文科学的な論証」の方法を身につけることができる。	鹿島茂『勝つための論文の書き方』第一回～第二回講義、および小池2001を読んでおく(120分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		

第6回	論証の方法(3) 論証の方法のうち、「自然科学的方法」「人文科学的方法」「哲学的方法」について具体的に学ぶ。 この回は「哲学的方法」について。(永井均1995『翔太と猫のインサイトの夏休み』から) これにより「言葉へのこだわり」および「思考の粘っこさ」を体感し、それらを身につけることができる。	『勝つための論文の書き方』第三回～第四回講義を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		
第7回	コピペとよばれない論文のために 山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読みながら、論文における「調べたことを書く」姿勢と方法について学修する。	『コピペと言われないレポートの書き方教室』を読んでおく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		
第8回	データの収集と分析(1) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第1章 多量の実例の観察に基づく言語現象の研究 第2章 大規模コーパスに基づくコロケーションの研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		
第9回	データの収集と分析(2) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第3章 会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究 第4章 内省に基づく意味の研究 アウトライン検証(1) ひとつあるいは複数のテーマを設定し、そのテーマのもとで アウトラインの作成およびプレゼンテーションを行う。アウトライン作成時に以下の点を注意して作成することにより、実際の作成時での注意点を学修する。 1. 具体的にどのように調査するのか。 2. その調査結果からどのような論証ができるのか。	該当文献を読んでおく(90分) 発表アウトライン(パワーポイント)を整理しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		
第10回	データの収集と分析(3) 藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法 データの収集と分析』 第12章 音素を発見する方法 第13章 音声の見方 第16章 漢字の処理と中国語コーパス	該当文献を読んでしっかりと理解しておく(90分)	授業内容を整理し、確認する(90分)
担当教員	渡部　淳		

第11回	自然科学的論証の実例 データをもとに「次の実験」を追体験しながら「論証」の方法を考えることができる。 またデータそのものの扱い方、その読み解き方を学修する。（V. S. ラマチャンドランほか2011『脳のなかの幽霊』角川文庫）	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	渡部　淳		
第12回	人文科学的論証の実例 具体的論文を通して、人文科学的方法を言語研究に適用した方法について具体的・実践的に学ぶ。（早津恵美子1989「有対他動詞と無対他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に―」） これにより「文法知識」だけでなく、「問い－主張－論証」という論文構成を身につけることができる。	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	渡部　淳		
第13回	認知言語学研究の方法(1) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第1部 実証的な認知言語学研究とは何か 第1章 実証的な研究法 第2章 認知言語学と実証的な研究法	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	渡部　淳		
第14回	認知言語学研究の方法(2) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第2部 言語データの収集と分析方法 第3章 自作例を使った研究の基礎 第4章 コーパスに基づく研究 第5章 心理実験・調査による研究	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	渡部　淳		
第15回	認知言語学研究の方法(3) 辻幸夫監修『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』 第3部 研究例の紹介 第6章～12章までの研究例からピックアップ	該当文献を読んでしっかりと理解しておく（90分）	授業内容を整理し、確認する（90分）
担当教員	渡部　淳		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業準備等授業参加度（確認小テストを含む）40％、演習課題60％。
その他	0	

教科書

『新版 論文の教室』／戸田山和久／NHK出版
『勝つための論文の書き方』／鹿島茂／文藝春秋
その他、授業中に適宜指示する。

参考文献

『コピペと言われないレポートの書き方教室』／山口裕之／新曜社
『言語研究の技法 データの収集と分析』／藤村逸子・滝沢直宏編／ひつじ書房
『認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験』／辻幸夫監修／ひつじ書房
その他、各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論B（青　晴海）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	青　晴海						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

指導する教員は、国際協力の現場で約30年勤務した経験ある教員である。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員	青　晴海		
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員	青　晴海		
第3回	本論の役割 先行研究ー問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員	青　晴海		
第4回	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員	青　晴海		
第5回	論文の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員	青　晴海		

第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	青　晴海		
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくても基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員	青　晴海		
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員	青　晴海		
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員	青　晴海		
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員	青　晴海		

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員	青　晴海		
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員	青　晴海		
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員	青　晴海		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員	青　晴海		
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員	青　晴海		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	

教科書

『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版
ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論B（木村　俊昭）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	木村　俊昭						

授業の位置づけ

いかに問題点、課題を整理し、そこからテーマ、リサーチクエスチョンを見つけ出し、先行研究の整理、仮説を立て、最適な立証方法を考える、そして、まとめるチカラを養うもの。

授業の概要

地域創生・SDGsに関する学術論文の書き方を重点的に指導するもの。

到達目標

本人がテーマとする学術論文を完成させるもの。

授業の方法

対面の対話方式とする。

ICT活用

関係資料等はすべてオンライン対応とし、ペーパレスとする。よって、各自PC持参のうえ、講義に出席のこと。

実務経験のある教員の教育内容

修士課程、博士課程における論文指導をしてきた経験から、具体的な論文指導となる。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の講義時に個別対応することにより、随時、アドバイス、助言する。また、講義時に理解度を確認するもの。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義全体の説明、各自の研究テーマの確認、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第2回	論文とは何か？の講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第3回	論文作成のプロセスに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第4回	論文テーマに関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第5回	論文構造に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		

第6回	論文テーマの先行研究に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第7回	論文の仮説に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第8回	論文作成の証拠に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第9回	論文作成の構成に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第10回	論文作成時の禁止事項に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		

第11回	説得力ある論文に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第12回	論文査読に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第13回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第14回	論文執筆に関する講義、対話、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第15回	各自修士論文概要の発表、助言・アドバイス、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表や対話による総合評価とするもの。
その他	0	

教科書

「社会人のための学術論文の書き方」木村俊昭（東京農業大学出版会）

参考文献

適宜、講義時に紹介する。

履修条件・留意事項等

初回講義にて、全体の流れ、講義内容等に関して説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論B（熊野　稔）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	熊野　稔						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員	熊野　稔		
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員	熊野　稔		
第3回	本論の役割 先行研究ー問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員	熊野　稔		
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員	熊野　稔		
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員	熊野　稔		

第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	熊野　稔		
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくても基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員	熊野　稔		
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員	熊野　稔		
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員	熊野　稔		
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員	熊野　稔		

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員	熊野　稔		
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員	熊野　稔		
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員	熊野　稔		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員	熊野　稔		
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員	熊野　稔		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	

教科書

『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版
ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。

参考文献

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論B（小西　正人）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員	小西　正人		
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員	小西　正人		
第3回	本論の役割 先行研究ー問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員	小西　正人		
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人		
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員	小西　正人		

第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	小西　正人		
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくても基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員	小西　正人		
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員	小西　正人		
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員	小西　正人		
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員	小西　正人		

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員	小西　正人		
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人		
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員	小西　正人		
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員	小西　正人		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	

教科書

『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版
ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。

参考文献

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論B（Richardson Peter）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	Richardson Peter						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第3回	本論の役割 先行研究ー問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員	Richardson Peter		

第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	Richardson Peter		
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくても基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、最小一つは図や表にしておく(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員	Richardson Peter		

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員	Richardson Peter		
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員	Richardson Peter		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	学会水準に達しているかどうか。

教科書

論文ワークブック／浜田麻里ほか／くろしお出版、ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。

参考文献

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論B（高橋　保夫）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第3回	本論の役割 先行研究ー問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員	高橋　保夫		

第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	高橋　保夫		
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくても基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員	高橋　保夫		

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員	高橋　保夫		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	

教科書

『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版
ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。

参考文献

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論B（巫　覩）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	巫　覩						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは、論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成について学習する。実物の修士論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)。	研究テーマの見直しをしておく(90分)。
担当教員	巫　覩		
第2回	論文の基本的な構成、序・本・結論の役割のうち、序論の役割について学習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)。	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)。
担当教員	巫　覩		
第3回	本論の役割 先行研究―問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)。	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておく(90分)。
担当教員	巫　覩		
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておく(90分)。	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておく(90分)。
担当教員	巫　覩		
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)。	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)。
担当教員	巫　覩		

第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておく(90分)。	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておく(90分以上)。
担当教員	巫　覩		
第7回	論文における結びの役割、結びの構成、全体のまとめの構成のパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)。	先行研究のうち、少なくても基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)。
担当教員	巫　覩		
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)。	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)。
担当教員	巫　覩		
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておく(90分)。	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておく(90分)。
担当教員	巫　覩		
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておく(90分)。	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)。
担当教員	巫　覩		

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておく(90分)。	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)。
担当教員	巫　覩		
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。論文のテーマ変更はこの時期に決定しておく。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておく(90分)。	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておく(90分)。
担当教員	巫　覩		
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおく(90分)。	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておく(90分)。
担当教員	巫　覩		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておく(90分)。	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておく(90分)
担当教員	巫　覩		
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておく(90分)。	先行研究レポートを指定期日までに提出する(90分以上)。
担当教員	巫　覩		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%
その他	0	

教科書

『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版
ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。

参考文献

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論B（魯　諍）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。

ICT活用

GoogleClassroomやメール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員	魯　諍		
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員	魯　諍		
第3回	本論の役割 先行研究ー問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員	魯　諍		
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員	魯　諍		

第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	魯　諍		
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくても基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員	魯　諍		
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員	魯　諍		
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員	魯　諍		
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員	魯　諍		

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員	魯　諍		
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員	魯　諍		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員	魯　諍		
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員	魯　諍		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	

教科書

『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版
ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。

参考文献

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目A						
科目名	研究方法論B（渡部　淳）					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡部　淳						

授業の位置づけ

論文作成および研究者の基盤となる学術レポートや論文完成のための指導科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけるための科目である。「研究方法論A」を承ける科目で、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」の基礎科目となる。

授業の概要

受講生の専門研究における研究テーマに向かって、どのように論文を書いていけばよいか、基本的な論文の書き方を演習しながら学ぶ。
論文の文体から、図表の表し方などの表現を、演習を通して身につけていくことから始まる。
受講生は各自の論文テーマを決定し、そのためにどのような研究活動が必要か、詳細な研究計画を立てながら、まず1章分を作成し、今後の研究方向を主体的に決めていく。

到達目標

1. 論文とは何かを説明できる。
2. レポートも序論・本論・結論の文章構成で考えられるようになる。
3. 専門研究分野の書式で参考文献リストが書ける。
4. 先行研究を批判的に読むことができる。
5. 研究テーマの情報収集に関して、メディアリテラシーをもって適切な分析ができる。
6. パワーポイントによる発表ができる。

授業の方法

配付印刷物とパワーポイントによる講義と、演習（体験実習としての模擬授業、振り返りと意見交換）を行う。
受講者は各自の修論の研究テーマを決定し、そのテーマに沿って主体的に資料収集し、少しずつ文章化しながら、できたところから指導を受けていく。
受講者は適宜発表をパワーポイントで行う。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業の中で、問題点とその解決法を指摘する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	論文とは 論文を書くときに留意する文体、誰に向かって書くのか、論文の構成を実物の修士論文を手にとって考えていく。	入学時の研究計画書を詳細に書き直しておく(90分)	研究テーマの見直しをしておく(90分)
担当教員	渡部　淳		
第2回	論文の基本的な構成 序・本・結論の役割のうち、序論の役割について演習する。受講者は論文モデルに基づいて、各自の研究テーマに沿った、背景説明、先行研究の紹介、問題提起の手法を模倣してみる。	各自の論文テーマをいくつか考え、テーマを絞っておくこと(90分)	各自の研究テーマで、論文の目的、方向付けを考えておく(90分)
担当教員	渡部　淳		
第3回	本論の役割 先行研究ー問題提起―方向付け―全体の予告のパターンで序論を書くことを確認する。 ここでは本論の構成として、論拠提示―結論提示―行動提示パターンを実際の論文から分析する。	各自の論文テーマを絞り、まず、ネットで先行研究を調べておく(90分)	論拠を示すときの事実(データ)と意見の分け方の表現の違い、事柄データの文章表現が使えるようにしておくこと(90分)
担当教員	渡部　淳		
第4回	本論の書き方 各自の論文テーマに関する事実提示におけるデータ解釈の文型パターンにしたがって、事柄データから考察表現までの演習を行う。	各自の論文テーマに関する資料を3つ以上集めておくこと(90分)	論文テーマに関するデータをできるだけ多く収集しておくこと(90分)
担当教員	渡部　淳		
第5回	論の展開方法 データ積み上げ型、結論先取り型による論を展開する方法にしたがって、各自の論文がどんな論拠提示が可能かを想定し、演習する。	各自の論文テーマの構成を完成しておく(90分)	論文テーマが決定していない院生は、いくつかを候補として選び、ネット等で資料集が可能かどうかチェックしておくこと(90分)
担当教員	渡部　淳		

第6回	データ収集のしかた 図書館において、先行研究の集め方、データの集め方のガイダンスを受け、実際に学術論文の検索をし、各自の論文テーマが「修論」として作成可能なものかを考察する。	論文テーマに関する資料収集での問題点を確認しておくこと(90分)	研究テーマに関する学術論文をできるだけ多く集め、精読しておくこと(90分以上)
担当教員	渡部　淳		
第7回	論文における結びの役割 結びの構成、全体のまとめの構成をパターンをタスクで演習する。	研究テーマの学術論文における参考文献から、先行研究1冊に目をとおしてこと(90分)	先行研究のうち、少なくても基本理論(1冊)は熟知しておくようにしておくこと(90分)
担当教員	渡部　淳		
第8回	図表や資料に関する表現 図表を用いて、数に関する表現、データ解釈の提示表現パターンを学ぶ。 どのような図、表を作成すれば本論の論拠が明確になるか、受講者同士で評価しあう。	論文テーマに関して収集した資料から、視覚的な図、表を選んでおく(90分)	各自の研究テーマ資料のうち、少なくとも一つは図や表にしておく(90分)
担当教員	渡部　淳		
第9回	資料・調査に関する表現 資料の提示の仕方として、例をあげる、対比する、注目させる、推論を示す、結論の補強に関するモデルを演習を通して、どのような表現があるかを学ぶ。 調査が必要な場合は、アンケートの仕方やデータのまとめ方をモデルから模倣してみる。	収集した資料のうち、類似したデータ資料を対比しておくこと(90分)	アンケート調査をする場合は、質問項目の有効性を分析しておくこと。またデータの解析方法も決めておくこと(90分)
担当教員	渡部　淳		
第10回	研究テーマに関する先行研究を書き始める 先行研究への意見、反論等も含めて、一般的な理論等の先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加えていく。	研究テーマの仮説をたてておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していく(90分以上)
担当教員	渡部　淳		

第11回	研究テーマの先行研究をまとめる 先行研究への意見、反論等も含めて、先行研究をレポートにまとめる。 各回、そのレポートの指導を受け、筆者の論点を書き加え序論または本論へつなげていく。	研究テーマの仮説を立証できる資料を収集しておくこと(90分)	先行研究のレポートを作成していくと同時に、関連資料をどんどん収集しておく(90分)
担当教員	渡部　淳		
第12回	先行研究のまとめ これまでの先行研究レポートを整理し、研究テーマの関連性を話し合いながら再考する。 論文のテーマ変更はこの時期に決定しておくこと。	研究テーマの仮説を裏付ける資料の整理、調査が必要な問題を考えておくこと(90分)	先行研究レポートをどんどん進め、できるだけ多くの文献にあたり、引用できる部分を文書化しておくこと(90分)
担当教員	渡部　淳		
第13回	参考文献の表し方 言語学や社会学、心理学分野の学会の投稿規定を比較し、各自の研究テーマ分野の学会指定による参考文献・引用文献リストの書き方を演習する。	研究テーマ領域の学会誌を読んでおくこと(90分)	論文で使用予定の参考・引用文献リストを作成しておくこと(90分)
担当教員	渡部　淳		
第14回	論文の本論「仮」作成 本論の構成を決め、1章分(2節以上)を書いてみる。書いた論文は指導を受け、改善すること。	先行研究を客観的に読み直し、論文に引用できる部分を文字化しておくこと(90分)	論文のメインとなる部分は何かを熟考しておくこと(90分)
担当教員	渡部　淳		
第15回	論文の本論作成 論文の1章分を提出し、指導を受ける。 その1章分がどの位置になるか論文の構成を再考する。	これまでの先行研究をまとめ、本論に引用できるようにしておくこと(90分)	先行研究レポートを指定期日までに提出すること(90分以上)
担当教員	渡部　淳		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各自の研究テーマに関する先行研究に関するレポート60%、演習課題40%。
その他	0	

教科書

『論文ワークブック』／浜田麻里ほか／くろしお出版
ほか研究領域に関する論文形式を適宜紹介する。

参考文献

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

各回の授業で、研究の進捗状況の報告や指定課題は2部ずつプリントアウトしておくこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目B						
科目名	異文化コミュニケーション研究Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、言語・文化に関する多角的な視点を身に付け、言語文化に関する総合力を備え（知識・技能）、国内外のさまざまなコミュニケーション問題に関心を持ち、その課題解決を探求しようとする姿勢（関心・意欲・態度）を促進すための授業である。したがって、受講者は、「異文化コミュニケーション研究Ⅰ」とともに、主体的に研究テーマに向かって自律的に研究していくための基礎科目となる。

授業の概要

この授業は異文化間のコミュニケーションにおける代表的な理論を、講義と受講生の研究発表を中心に検証していく。
異文化間におけるコミュニケーションギャップとパーセプションギャップの理論を、先行研究論文の精読をとおして、理論の検証をディスカッションしていく。

到達目標

1. 異文化コミュニケーションの代表的な理論を具体例をあげて説明できる。
2. 先行研究文献を鵜呑みせずに懐疑的／批判的に精読し、疑問点をすぐに探求しようとする研究姿勢になる。
3. 異なった価値観を受入れる寛容さを意識化できる。

授業の方法

授業の前半は、異文化コミュニケーションの理論の確認と、受講者の異文化体験事例から演繹的に描写する手法（DIE法など）で分析していく。
授業の後半は文献を批判的に読み、ディスカッションし、各自の理解をプレゼンしていく。

ICT活用

授業時に使用する文献資料等はGoogle Classroomで配信し、受講生はここに課題を提出する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法			
課題返却は次回の授業で手渡しするか、Google Classroomで返却する。すべての課題には評価コメントや参考資料案内等を記してから返却する。また、授業内に手渡しで返却する場合は、コメント記載だけでなく、クラスで内で口頭でもフィードバックし、よいところを共有していく。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション コミュニケーションのしくみ 異文化コミュニケーションとは	「文化」の定義を5以上、「コミュニケーション」の定義を10以上、「異文化コミュニケーション」の定義を5つ以上調べておくこと。(90分)	「文化」「コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」の各定義の一つはテキストを見ないで言えるようにする。(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第2回	異文化コミュニケーションスキルとは ミスコミュニケーションの回避と自己開示	自身の異文化体験を振り返り、ミスコミュニケーションをDIE法で分析しておく(90分)	コミュニケーション能力に必要な資源をまとめておく。(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第3回	個人レベルの異文化接触と適応 統合的適応と第三の文化	異文化接触の文献資料をよく読んでおく。(90分)	先行研究論文から専門用語の各定義をまとめておく。(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第4回	異文化コミュニケーションの研究方法 量的研究と質的研究	エスノグラフィーにおける参与観察例をサイトで読んでおくこと。(120分)	指定会話をレトリック分析手法によるスピーチ分析でやってみる。(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第5回	価値観を測定する手法 ホフステード「国民文化の次元」と権力格差調査から	権力格差の大きい社会の特徴を発表できるように準備する。(120分)	権力格差の大小による社会の基本的違いをまとめておく。(120分)
担当教員	岡本　佐智子		

第6回	集団間コミュニケーションと対人コミュニケーション 個人主義的傾向と集団主義的傾向文化	集団主義的傾向の強い文化の価値観について調べて説明できるようにしておく。(90分)	個人主義的傾向の価値観の特徴をまとめておく。(120分)
担当教員	岡本　佐智子		
第7回	ジェンダーと性別役割 男らしさ・女らしさ文化を考える	世界のジェンダー指数を調べておく。(20分)	ジェンダー指標からみた日本の将来展望をレポートし、ディスカッションペーパーにする。(160分)
担当教員	岡本　佐智子		
第8回	不確実性の回避 不確実性の回避指標と個人主義指標	不確実性の回避の強い社会の特徴を調べ、プレゼンテーション準備をしておく。(160分)	ホフステードの不確実性の回避の批判点の追加修正をしておく。(20分)
担当教員	岡本　佐智子		
第9回	短期志向の社会と長期志向の社会 ビジネス思考様式の差異とその価値観をディスカッションする	世界価値観調査のデータをよく読んで、ディスカッションペーパーを作成しておく。(180分)	長期志向指標の値について説明できるようにしておく。(30分)
担当教員	岡本　佐智子		
第10回	放縦度の高い社会と抑制の強い社会 職場における放縦ー抑制	世界の言論の自由度を調査し、プレゼンできるように準備する。(120分)	ユーロバロメーターのデータを読み「言論の自由」度は、どうとらえられているかをレポートする。(60分)
担当教員	岡本　佐智子		

第11回	組織文化と国民文化 組織文化を管理する手法	指定する職業文化についてプレゼンテーション準備。(120分)	グローバル企業から1社選び、その組織文化についてレポートする。(120分)
担当教員	岡本　佐智子		
第12回	自民族中心主義と文化相対主義 自集団と他集団に対するステレオタイプ	言語とユーモアに関する資料をよく読んでおく。(30分)	自国の移民・難民の動向からディスカッションペーパーを作成する。(150分)
担当教員	岡本　佐智子		
第13回	多国籍企業における態度の形成法 国際競争上の文化的側面	多国籍ビジネス1社を選び、その企業戦略特徴をプレゼンできるようにしておく。(120分)	国際マーケティング、広告、消費者行動についてまとめておく。(60分)
担当教員	岡本　佐智子		
第14回	組織文化と家族観 日本の伝統的家族観とは	今日的日本文化の特徴についてプレゼンテーション準備をする。(120分)	日本文化の伝統的価値化の変容をまとめておく。(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第15回	まとめ 多文化共生を目指す社会・組織・地域の問題点	「文化の進化」「ステレオタイプ」等の配布資料を再度読み、問題点をディスカッションペーパーにしておく。(120分)	日本の多文化共生施策と現状をレポートする。(150分)
担当教員	岡本　佐智子		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション50%、ディスカッションペーパー(レポート含む)50%
その他	0	

教科書

プリントを配布する。

参考文献

『多文化世界 原書第3版』G,ホフステード・G.J.ホフステード・M.ミンコフ、有斐閣。『異文化コミュニケーション・ハンドブック』石井敏・久米昭元・遠山淳ほか編、有斐閣選書。このほか、授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目B						
科目名	異文化コミュニケーション研究Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、「異文化コミュニケーションⅠ」とともに、言語文化コミュニケーション研究において、異言語・異文化に関する多角的な視点を身に付け（知識・技能）、各言語文化社会でのニーズに対応できるコミュニケーション方略が柔軟な姿勢を（関心・意欲・態度）促進するための基礎科目である。

授業の概要

この授業では、異文化コミュニケーション研究の要となるコミュニケーションを、文化スキーマ理論に基づいた種々の調査結果をはじめとする先行研究を丁寧に読んでいくことで、文化摩擦の側面を分析できるようにしていく。先行研究論文の精読では「面子」を中心とし、常に批判的に読むことを習慣化していくため、ディスカッションをすることで多様な解釈を促していきたい。

到達目標

1. 文化の「スキーマ」理論が説明できる。
2. コミュニケーションギャップの要因を描写できる。
3. 異文化によるすれ違いを多元的視点で分析できる。

授業の方法

各授業の前半は理論講義と先行研究論文を精読し、後半は学生の個別プレゼンテーションとディスカッションを中心に進めていく。

ICT活用

課題や授業資料提供はGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法			
課題は次回の授業までにGoogle Classroomでコメントを添えて返却する。特に優れた課題にはクラス内でコメントし、クラスで共有する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	文化スキーマとは スキーマ理論の展開	「スキーマ」についてサイトで調べておくこと(90分)	スキーマ理論の具体例を記述しておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第2回	ホフステードの文化次元 受講生はプレゼンテーションで「多文化世界」を概説してもらう	プレゼンテーションの準備をしておく(120分)	プレゼンテーションをレポートに書き直す(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第3回	コミュニケーションモデルの変遷 シャノンとウィーバーから、バーローの理論	シャノンとウィーバー、バーローのコミュニケーションモデルを調べておくこと(90分)	ドットのコミュニケーションモデルを具体例をあげて説明文にしておくこと(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第4回	面子 Ⅰ 面子とfaceとは	指定の「面子」論文をよく読んでおく(120分)	面子の問題事例をまとめておく(60分)
担当教員	岡本　佐智子		
第5回	面子 Ⅱ 中国人のコミュニケーション行動	中国人の面子の問題事例を調べて、スライドで発表できるようにしておく(120分)	日本人と中国人が交流するときのすれ違いをレポートにしておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		

第6回	面子Ⅲ 中国人は日本人をどう見ているか	先行研究論文をよく読んで、要点をスライドにしておく(120分)	中国人と日本人の価値観比較をレポートする(120分)
担当教員	岡本　佐智子		
第7回	異文化間摩擦を考えるⅠ 日本人が困難に感じるマレーシア人の行動	マレーシアにおける日系企業と従業員のトラブルを調べておく(90分)	マレーシアにおける日系または合弁企業の従業員
担当教員	岡本　佐智子		
第8回	異文化間摩擦を考えるⅡ 日本人が困難に感じるフィリピン人の行動	日本におけるフィリピン人従業員のコミュニケーショントラブルを調べておく(90分)	日本における多文化共生はどこまで進んできたか、ディスカッションペーパーにする(120分)
担当教員	岡本　佐智子		
第9回	日本人のコミュニケーション行動の特質Ⅰ 在フィリピン日系企業のコミュニケーション管理	フィリピン人の職場における行動を読んで、スライドにまとめておく(120分)	フィリピン人の価値観、考え方と行動をレポートにまとめる(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第10回	日本人のコミュニケーション行動の特質Ⅱ 米国人の労働意識とコミュニケーション行動の捉え方	アメリカ人のコミュニケーション行動の特徴を調べておく(90分)	アメリカ人の社会行動規範とコミュニケーションスタイルをまとめておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		

第11回	異文化間コミュニケーションの摩擦調査 人間関係行動、業務遂行行動、経営管理行動のイメージ調査から	出身国の海外進出企業を一つ選び、現地管理職の悩みを調べておく(120分)	摩擦調査におけるアンケート調査の問題点をまとめておく(60分)
担当教員	岡本　佐智子		
第12回	日本人が文化の相違を感じた行動 日系企業の現地管理職の文化の相違から	東南アジアにける日系または母国の進出企業とその経営規模を調べておく(90分)	現地管理職とのミスコミュニケーション事例を分析しておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第13回	多様性の受容Ⅰ 民主主義、グローバリゼーション、持続可能な開発を巡って	帝国、帝国主義、権力について調べておくこと(90分)	世界の移住および移民労働者動向を調べておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第14回	多様性の受容Ⅱ 偏見、差別、人種主義と相互依存主義	移住受入国と送り出し国の上位を調べておく(90分)	移住者の地域統合上の問題点をまとめておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第15回	まとめ 多様性の受容Ⅲ 多元的な視点	ナショナリズムとはなにか、調べておく(30分)	アイデンティティと多様性に関する資料を読んで、レポートにする(150分)
担当教員	岡本　佐智子		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(ディスカッションペーパー含む)50%、プレゼンテーション50%。
その他	0	

教科書

プリントを配布する。

参考文献

『グローバル社会における異文化間コミュニケーション』西田ひろ子、風間書房。『Q＆Aでわかる 中国人とのつき合いかた』本名信之・羅華、大修館書店。『民主主義と多文化教育』ジェームズ.A.バンクス著、平沢安政訳、明石書店。このほか授業で先行研究論文等を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目B						
科目名	国際関係論特別研究Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	青　晴海						

授業の位置づけ

国際関係論特別研究Ⅰでは、国家のみならず、NGOや企業などの多様なアクターに着目し、グローバルな課題の解決に向けて、各アクターがどのように協力・対立しているかを分析する。本授業では、国家を中心とする伝統的な国際関係論と比較しながら、国際関係論の特徴を明らかにしつつ、具体的な事例を用いて、多様なアクターがどう関わっているのかを分析する。本授業は、論文作成のための研究法論の基礎となる科目であるとともに、社会の国際化という変化に対応できる専門性と持続性を考慮し、専門的な知識、豊かで幅広い教養、コミュニケーション能力などを培うための科目であり、本研究科のディプロマポリシーである、①各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている（知識・技能）、②言語・文化に関する総合力を身につけ国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる（関心・意欲・態度）、③各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている（思考・判断・表現）、に沿う講義である。

授業の概要

国際関係論特別研究Ⅰでは「グローバリゼーションとは、何か」について改めて検証し、国際関係論の概念と現代国際政治の変動や転換を学び、日本国内の社会問題解決にも、グローバルな視野が不可欠であることを再確認しながら授業を展開します。地球規模での社会の諸問題について自ら考え行動するための習得も目指します。身近な出来事にも「グローバル」な視野でクリティカル・シンキングを働かせ、問題意識を持ち課題の解決に向けたトレーニングをを行うことで論文作成のための研究法論の基礎を学びます。

到達目標

グローバル化と反グローバル化が衝突する国際環境に目を向け、国家や個人、そしてグローバル市民社会の役割を意識し、今日の地球規模の諸問題について考察し分析することで、① トランスナショナル関係論の基礎的な考え方・概念を修得すること、② 学術論文の読み方を修得すること、③ 学んだ概念を利用して、メディアなどで報道されるグローバルな課題について、自分で事実に即して分析することができるようになる、④ 論理的に主張し、他者に伝えることができるようになる、他の人の報告に対して有益なコメントができるようになる、以上について習得することを目的とします。

授業の方法

原則として「対面授業」、ディスカッション形式で実施します。

ICT活用

各種IT機器やユーチューブ画像などを適宜活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国際協力の現場で約30年間勤務してきた教員が指導する。

課題に対するフィードバックの方法			
必要に応じて課題が学生を提出させ、それを教員がコメントし、各授業の際にコメントバックをおこなう。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション（国際関係論はどのような学問なのか）	国際関係論の基礎となる関係資料をHPから探し事前に確認する（90分）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第2回	20世紀の国際関係をどう理解するのか（配布資料に基づくディスカッション）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第3回	今日の国際関係についての新潮流	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第4回	グローバリゼーションの時代をどう理解するのか	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第5回	現代の安全保障体制について	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			

第6回	国際社会における日本の位置づけの理解	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第7回	アジアの政治と国際関係をどう読むのか	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第8回	国際関係理論の構築	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第9回	国際レジーム論とグローバルガヴァナンス論	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第10回	リージョナリズムと欧州統合の現状と課題	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			

第11回	南北問題解決への模索	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第12回	地球環境問題への対応	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第13回	国際紛争・国内紛争への対応	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第14回	国際的なネットワークの変遷	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第15回	まとめ	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は行わない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業で提出されるレポート内容、参加態度、参加度を考慮し総合的に判断する。
その他	0	

教科書

佐渡友哲・信夫隆司編　『国際関係論』 弘文堂

参考文献

講義の中で提示する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目B						
科目名	国際関係論特別研究Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	青　晴海						

授業の位置づけ

国際関係論特別研究Ⅱでは、国際関係特別研究Ⅰを基礎とし、国家を中心とする伝統的な国際関係論と比較しながら、国際関係論の特徴を明らかにしつつ、具体的な事例を用いて、多様なアクターがどう関わっているのかを分析する。本授業は、論文作成のための研究法論の基礎となる科目であるとともに、社会の国際化という変化に対応できる専門性と持続性を考慮し、専門的な知識、豊かで幅広い教養、コミュニケーション能力などを培うための科目であり、本研究科のディプロマポリシーである、①各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている（知識・技能）、②言語・文化に関する総合力を身につけ国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる（関心・意欲・態度）、③各領域の分野において研究した問題を論文にまとめ、発表できる能力を身につけている（思考・判断・表現）、に沿う講義である。

授業の概要

本授業では、国際政治経済学の観点から、グローバル化が進む国際社会においてルールの形成がどのように図られているのかを検討する。非国家主体の中でも特に国家の役割、企業の役割、市民社会の役割に焦点を当て、貿易、金融、投資、環境、知的財産権、人権、紛争といった問題分野において、国家、企業、市民社会が私的・公的なルール形成にどのような影響力を及ぼしているかを分析する。

到達目標

国際関係学の基本的な理論や考え方を習得する。
国際関係学に関する具体的な事例において、リサーチクエッションを設定する。
事例分析を通して、リサーチクエッションに対する答えを見つけ出す。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

授業内容に関連するホームページや動画などの活用。動画等の視聴による自主学習支援

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は国際協力の現場で約30年間勤務してきた教員である。

課題に対するフィードバックの方法			
代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション（国際関係をめぐる多様なアクターについて）	国際関係をめぐる多様なアクターに関する情報を収集する（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第2回	国際関係論に関するテキストの精読（1）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第3回	国際関係論に関するテキストの精読及びディスカッション（2）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第4回	国際関係論に関するテキストの精読及びディスカッション（3）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第5回	貿易に関する制度形成と多様なアクター	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			

第6回	金融に関する制度形成と多様なアクター	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第7回	投資に関する制度形成と多様なアクター	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第8回	環境に関する制度形成と多様なアクター	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第9回	知的財産権に関する制度形成と多様なアクター	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第10回	人権に関する制度形成と多様なアクター	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			

第11回	紛争に関する影響と多様なアクター	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第12回	事例分析の発表(1)（貿易・投資）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第13回	事例分析の発表(2)（環境）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	授業で指摘されたポイントの整理、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第14回	事例分析の発表(3)（知財）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			
第15回	事例分析の発表(4)（人権・紛争）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）	配布された資料を次回までに読み込み、それに対する意見を考える（90分）
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は行わない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、参加度、出席態度
その他	0	

教科書
使用しない。

参考文献
授業の初回時に提示する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション　共通科目B						
科目名	地域社会特別研究Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

「各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えている」および「言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまなニーズに応えることができる」ことを目的とする科目である。他の言語系科目のほか、地域系科目と関連する。

授業の概要

国際的・国内的の各地域の主要な言語を中心に、それぞれの言語グループの特徴を学ぶ。また自らの経験と垂らし合わせ、当てはまる部分やそうではない部分について考察し、理解する。

到達目標

1. 世界の主要な言語について概略的に述べることができる。
2. 日本国内の主要な言語・方言について概略的に述べることができる。
3. 世界の言語の語族や語派について概略的に述べることができる。
4. 各「言語行動」の違いを知り、多様な行動様式を比較できる。

授業の方法

板書と配布印刷物を中心に、講義形式ですすめる。受講者には適宜発表をしてもらう。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
それぞれの発表について、ハンドアウトおよび発表内容の全てについて細かくコメントする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション 歴史言語学について	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		
第2回	印欧諸語の分布と特徴について:イタリック語派 具体言語をとりあげて概説(ラテン語、イタリア語、フランス語など)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		
第3回	印欧諸語の分布と特徴について:ゲルマン語派 具体言語をとりあげて概説(英語、ドイツ語など)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		
第4回	印欧諸語の分布と特徴について:その他 具体言語をとりあげて概説(ロシア語、古典ギリシャ語など)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		
第5回	アフリカの諸言語の分布と特徴について 具体言語をとりあげて概説(スワヒリ語など)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		

第6回	受講者による発表、および発展学習	発表準備をしっかり行う（120分以上）	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む（120分）
担当教員	小西　正人		
第7回	アジアの言語の分布と特徴について：アフロ・アジア諸語 具体言語をとりあげて概説（アラビア語など）	シラバスを確認し、当該項目について調べておく（90分）	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む（120分）
担当教員	小西　正人		
第8回	アジアの言語の分布と特徴について：孤立語系の言語 具体言語をとりあげて概説（中国語、中国の諸言語、ベトナム語など）	シラバスを確認し、当該項目について調べておく（90分）	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む（120分）
担当教員	小西　正人		
第9回	アジアの言語の分布と特徴について：アルタイ諸語 具体言語をとりあげて概説（モンゴル語など）	シラバスを確認し、当該項目について調べておく（90分）	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む（120分）
担当教員	小西　正人		
第10回	アジアの言語の分布と特徴について：韓国語・日本語	シラバスを確認し、当該項目について調べておく（90分）	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む（120分）
担当教員	小西　正人		

第11回	受講者による発表、および発展学習	発表準備をしっかり行う(120分以上)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		
第12回	日本語の方言について(概説)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		
第13回	日本語の方言について(北海道方言・関西方言)	シラバスを確認し、当該項目について調べておく(90分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		
第14回	もののいいかたの方言学(1) 小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』序章・第1章部分	シラバスを確認し、該当ページを読了・理解しておく(120分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		
第15回	もののいいかたの方言学(2) 小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』第2章・第3章部分	シラバスを確認し、該当ページを読了・理解しておく(120分)	授業内容を復習し、授業での指示課題に取り組む(120分)
担当教員	小西　正人		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表の形式・内容、および通常の授業参加度による。
その他	0	

教科書
授業時に適宜指示、それ以外はプリントを配布する。

参考文献
授業内で適宜指示する。

履修条件・留意事項等
事前・事後学習をしっかり行うこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　英語・英米文化コミュニケーション領域						
科目名	英語学特殊研究					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーとの関連で言えば、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えているを達成する科目である。

授業の概要

われわれは日常生活の中でさまざまな現象に取り囲まれているが、一見無秩序に思われる現象にもその背後には秩序、規則性が潜んでいる。ことばに目を転じれば、その背後にもやはり規則性が潜んでいるのである。本授業では、英語という言語に内在している規則性を発見し、明らかにしていくことを目指す。とくに、ことばを科学的に研究する学問である言語学、その一部門である英語学、さらにその中核をなす統語部門に関する理解を深めていく。

到達目標

・英語のしくみを深く理解し説明できる。
・文献に書かれていることを正しく述べることができる。
・論理的にものごとを論じることができる。

授業の方法

はじめは板書を使った講義形式、適宜輪読・発表形式に移行する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
授業内での発表、提出物にはコメントをする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する。 生成文法の研究プログラム	受講動機について尋ねられるので、準備しておく。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第2回	句構造(1) 構造的多義性 規則の定式化	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第3回	句構造(2) 句構造の機能的性格	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第4回	句構造と移動(1) 英語疑問文における主語と助動詞の語順転換	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第5回	句構造と移動(2) 文法関係と構造関係 句構造の変形	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		

第6回	英語助動詞システムにおける主要部移動	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第7回	動詞句(1) 英語の場合	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第8回	動詞句(2) 日本語の場合	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第9回	名詞句の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第10回	動詞句の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		

第11回	Xバー理論	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第12回	Xバー理論と文の内部構造	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第13回	否定極性と文構造(1) 否定極性	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第14回	否定極性と文構造(2) c-command条件	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第15回	主語の位置と否定極性	次回進む予定のところを読んでくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(40%)、課題提出(40%)、質疑応答(20%)
その他	0	

教科書

『生成文法』渡辺明 東京大学出版会

参考文献

授業内に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

予習・復習をしっかりすること。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　英語・英米文化コミュニケーション領域						
科目名	英米言語文化特殊研究Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	Richardson Peter						

授業の位置づけ

This course explores a range of Anglo-American cultural perspectives through an analysis of the language used in a number of TED talks.
各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えている。(知識・技能)
言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応えることができる。(関心・意欲・態度)

授業の概要

This course will introduce students to some key scientific and cultural topics related to the modern world through a range of popular TED talks. These topics will be explored through readings and interactive activities, providing the basis for discussing the differences and similarities between Anglo-American and Asian attitudes towards a range of universal human concerns.

到達目標

The aim of this course is to develop students' knowledge of Anglo-American cultural attitudes towards key global topics within the context of thinking about their own ways of thinking and experiencing the world.

授業の方法

TED presentations, readings, vocabulary building and comprehension activities, and group discussions will be the main components of this course.

ICT活用

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.

実務経験のある教員の教育内容

none

課題に対するフィードバックの方法			
Answers to tests will be given after the tests have been completed and advice will be provided to help the students improve.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Explanation of the syllabus and introduction to the course.	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員	Richardson Peter		
第2回	Study the “Are You Sleeping Enough” reading. Explore the importance of sleep and different cultural perspectives on how much sleep is good or bad.	Read pages 24 to 33 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第3回	Discuss the “How to Succeed: Get More Sleep” TED talk and think about gender differences related to sleep and the negative impact of modern lifestyles on sleep patterns.	Watch the “How to Succeed: Get More Sleep” TED talk. Read pages 34 to 39 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第4回	Go through the “We are Cyborgs” reading and examine how technologies in different countries are enhancing human abilities. Discuss how different cultures have different attitudes to technology.	Read pages 40 to 49 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第5回	Reflect on the “I Listen to Color” TED talk and explore different perspectives on technologies that can change the way we experience the world.	Watch the “I Listen to Color” TED talk. Read pages 50 to 55 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		

第6回	Study the “Happy Planet” reading and investigate different approaches to measuring progress and conceptualizing happiness.	Read pages 56 to 65 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第7回	Deliver the midterm presentation to the class. Discuss the “The Happy Planet Index” TED Talk and explore and critically evaluate new ways to measure global happiness.	Discuss the “The Happy Planet Index” TED Talk and explore and critically evaluate new ways to measure global happiness. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第8回	Review of the first half of the course and midterm test.	Prepare by studying the vocabulary, talks, and readings from the first half of the course. 90分	Reflect on the test and writing assignment and try to identify your weaknesses and work on addressing them. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第9回	Go through the “Career Paths” reading and think about how different cultures view the idea of a mid-career break.	Read pages 72 to 81 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第10回	Reflect on the “The Power of Time Off” TED Talk and explore different approaches to time-off programs.	Watch the “The Power of Time Off” TED Talk. Read pages 82 to 87 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		

第11回	Study the “Personality Types” reading and examine how your thoughts about the notion of personality compare to the thoughts of people from different backgrounds.	Read pages 120 to 129 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第12回	Discuss the “The Power of Introverts” TED Talk and critically examine negative and positive attitudes towards introversion.	Watch the “The Power of Introverts” TED. Talk Read pages 130 to 135 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第13回	Go through the “Smart Thinking” reading and think about different ways to define intelligence in general and animal intelligence in particular.	Read pages 136 to 145 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第14回	Deliver the final presentation to the class. Reflect on the “The Gentle Genius of Bonobos” TED Talk and explore animal communication and the issue of whether animals also have a kind of culture.	Watch the “The Gentle Genius of Bonobos” TED Talk. Read pages 146 to 151 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員	Richardson Peter		
第15回	Review of the course and final test.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course. 90分	Consolidate the content of the course. 90分
担当教員	Richardson Peter		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験 実施しない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	participation: 20%, week 7 presentation: 15%, week 8 test: 25%, week 14 presentation: 15%, week 15 test: 25%
その他	0	

教科書

21st Century Reading: Creative Thinking and Reading with Ted Talks. Publisher: National Geographic Learning. ISBN-13: 978-1-305-26571-4.

参考文献

none

履修条件・留意事項等

Always bring a bilingual dictionary to the class. This class will be conducted in English only, so prepare to push yourself to do your best to understand and respond to the teacher.

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　英語・英米文化コミュニケーション領域						
科目名	英米言語文化特殊研究Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡部　淳						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマポリシーの「各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備える（知識・技能）」ことを基本に、「言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応える（関心・意欲・態度）」ことができることと関連する科目である。

授業の概要

この授業では、英米圏の言語や文化の特徴や問題を総合的に理解するために、英米圏のみならずヨーロッパや中東、アジアなどの言語・文化・社会を学び、英米圏と比較しながら講義を進める。

到達目標

この授業は、現代世界における英米圏の言語、社会、文化の思考様式や特徴を、他の文化圏と比較しながら理解し、議論できるようになることを目標とする。

授業の方法

学生が関心を持ったテーマについてのプレゼンテーションやディスカッションによって授業を進める。学生のプレゼンテーションやディスカッションに基づき、教員からアドバイスや補足説明や講義を行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法			
発表時および課題提出時にそれぞれ細かい指示や指導を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業内容と進め方の説明と、各学生による授業に関連する関心事項のプレゼンテーションとディスカッション。	シラバスをよく読み、授業に関連する関心事項について発表する準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		
第2回	世界の言語、宗教などの文化的な広がりを俯瞰する。	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		
第3回	交流から生まれる文化:自文化と他文化の関係性から異文化を考える。 自分の文化が世界とのどのような交流によって生成しているか学生に考えさせ、史実に沿って学習しながら、自分の文化に内在する世界のさまざまな文化や価値観への気づきを促す。	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		
第4回	東アジア地域の文化:英米の文化と東アジア地域のつながりについて	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		
第5回	東南アジア地域の文化:英米とのつながりと歴史の多層性と文化的多様性について 映像資料を用いて、音楽や芸術などの日本との類似点について、中国も含めた大きな文化交流の視点から考えさせる。	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		

第6回	南アジア地域の文化:英米とのつながりと多言語主義について	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		
第7回	西アジア地域の文化:ペルシアとイスラームの思想と文化について 担当教員が実際に中東に行った時の体験談や撮影した写真から、学生のイメージと実際の現地の実態のギャップを考察させ、世界の文化の多様性や奥深さへの気づきへと導く。	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		
第8回	西ヨーロッパ地域の文化:古代ギリシア・ローマとルネサンス以降の文化について ルネサンスや宗教改革が、イスラームやモンゴルなどの外部世界との交流によってもたらされていることを、具体的な史実に沿って学習し、ヨーロッパ文化にとっての異文化の意味を考察する。	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		
第9回	イギリスの文化:英語発祥の地の歴史と文化について	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		
第10回	コモンウェルスの文化:英連邦の文化について	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部　淳		

第11回	アメリカの文化(1)超大国の歴史と文化について	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部 淳		
第12回	アメリカの文化(2)現代社会の文化と表現について	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部 淳		
第13回	グローバル空間での新しい文化の生成:IT時代のコミュニケーション文化について	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部 淳		
第14回	これまでの振り返りと、各自の考えをまとめたプレゼンテーションとディスカッション。	授業内容について予習し、自分の発表の準備をする(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部 淳		
第15回	プレゼンテーションの講評と、グローバル化時代の言語と文化へのアプローチについての講義とディスカッション。	授業内容について予習する(90分)。	授業であたえられた課題やレポートをこなし、自分の発表のリサーチをする(90分)。
担当教員	渡部 淳		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験 実施しない

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性(20%)、発表内容(40%)、レポート・課題(40%)。
その他	0	

教科書

特になし。

参考文献

各授業で関連する文献や資料を適宜指示。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　英語・英米文化コミュニケーション領域						
科目名	英語文献翻訳実践演習A					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	高橋　保夫						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーとの関連で言えば、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えていることを達成するための科目である。「英語文献翻訳実践演習B」と関連を持つ。

授業の概要

本授業では英語から日本語への翻訳を行う。テキストとして、世界的に著名な言語学者である David Crystal が書いた非常にわかりやすいことばに関する本である、A Little Book of Language を用い、ことばに関する知識を得ながら、翻訳を学ぶ。

到達目標

・英語の文献を読んで討論することができる。
・理解した内容を直訳から日本語らしい日本語に適用することができる。
・日英語そして日英の文化の違いについての比較ができる。

授業の方法

はじめは板書を使った講義形式、適宜輪読・発表形式に移行する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
授業内での発表、提出物にはコメントをする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する。 ACCENTS AND DIALECTS	受講動機について尋ねられるので、準備しておく。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第2回	BEING BILINGUAL	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第3回	THE LANGUAGES OF THE WORLD	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第4回	THE ORIGINS OF SPEECH	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第5回	MODERN WRITING	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		

第6回	SIGN LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第7回	COMPARING LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第8回	DYING LANGUAGES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第9回	LANGUAGE CHANGE	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第10回	LANGUAGE VARIATION	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		

第11回	LANGUAGE AT WORK	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第12回	SLANG	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第13回	DICTIONARIES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第14回	ETYMOLOGY	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		
第15回	PLACE NAMES	次回進む予定のところを読んで、日本語にしてくる。(90分)	授業内で進んだところまでを復習しておく。指示があった場合にはそれも調べておく。(90分)
担当教員	高橋　保夫		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(40%)、課題提出(40%)、質疑応答(20%)
その他	0	

教科書

A Little Book of Language / David Crystal / Yale University Press

参考文献

授業内に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

予習・復習をしっかりすること。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　英語・英米文化コミュニケーション領域						
科目名	英語文献翻訳実践演習B					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡部　淳						

授業の位置づけ

各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語能力を身につけるための科目である。
「英語文献翻訳実践演習A」と関連する科目である。

授業の概要

現代日本・東アジアなど事例の日本語の文献を実際に英語に翻訳する中で、学術文献の理解を実践的に学ぶ科目である。

到達目標

各種学術文献を自分の力で理解し、適切に翻訳することができる。そしてそれにしたがった議論を組み立てることができる。

授業の方法

・学生の研究分野に関連する学術文献を選定し翻訳する。
・学生は指定された文献の指定された箇所を毎回実際に翻訳してくる。
・授業では、学生が提出した翻案をクラス全体で議論しながら、修正し理解・翻訳の技能を会得する。

ICT活用

翻訳のリソースとしてweb上のドキュメントを使うことがある。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
各回の授業内で、各自の提出課題に対して適切な指導とアドバイスを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・オリエンテーション 授業内容、進め方などについての説明。	シラバスをよく読み、授業内容と進行に必要な知識を学習しておく。(90分)	オリエンテーションの内容を復習し、自分の研究分野や研究対象を整理する(90分)
担当教員	渡部　淳		
第2回	・各学生の研究分野の共有 各学生が大学院でどのような研究関心を持っているのかをプレゼンしてもらい、翻訳する文献の選定を行う。	自分の研究分野や対象についてのプレゼンテーションの準備を行う(90分)	授業中に提示された文献について自らリサーチを行い、自分に合った文献の種類やレベルを絞り込む(90分)
担当教員	渡部　淳		
第3回	・文献翻訳実践演習1 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第4回	・文献翻訳実践演習2 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第5回	・文献翻訳実践演習3 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		

第6回	・文献翻訳実践演習4 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第7回	・文献翻訳実践演習5 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第8回	・文献翻訳実践演習6 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第9回	・文献翻訳実践演習7 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第10回	・文献翻訳実践演習8 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		

第11回	・文献翻訳実践演習9 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第12回	・文献翻訳実践演習10 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第13回	・文献翻訳実践演習11 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第14回	・文献翻訳実践演習12 各学生が指定された文献の指定された箇所の翻訳を持ち寄り、クラスでその翻訳を議論しながら、学術文献のより高い理解と翻訳の精度を目指す。	指定された文献の指定された部分について自分なりに翻訳をしてみる。(90分)	自分の翻訳に対する指摘やアドバイスなどのノートを振り返りまとめておく。(90分)
担当教員	渡部　淳		
第15回	・まとめと講評 各学生のこれまでの翻訳を振り返り、各自の翻訳の特性や問題点などを整理・指摘し、今後の学術文献翻訳へのアドバイスを行う。	これまでの自分の翻訳を振り返り、自己評価を行う。(90分)	授業での指摘やアドバイスを自分なりにまとめ、今後の翻訳の指針となるノートを作成する。(90分)
担当教員	渡部　淳		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席態度（20％）課題の提出率（30％）提出課題のクオリティー（30％）議論参加への積極性（20％）
その他	0	なし

教科書

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

術文献の理解と翻訳に真剣に取り組む、向学心の旺盛な学生を歓迎する。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　中国語・中国文化コミュニケーション領域						
科目名	中国学特殊研究					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応える能力を身につけるための科目である。

授業の概要

この授業は改革・開放以来の中国メディアの変容と実態を考察し、検討する。具体的な事例を取り上げつつ、メディアと政治、経済、社会との相互関係を分析し、問題点について議論する。合わせて日本のメディア事情にも触れ、比較の視座から、メディアが果たす役割を検討し、問題意識を高める。

到達目標

改革・開放以来の中国メディアの変容を理解し、現在の中国メディアの実態について説明することができる。中国に関する情報やニュースに触れるときに、複眼で見る力をつけることができる。

授業の方法

この授業は、担当教員の解説、前もって課題とした文献や配布プリントについての受講者による報告、これまでの授業を踏まえての受講者の口頭発表から構成される。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。口頭発表については事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション ②中国のメディア事情について説明し、履修者に関心を持つテーマを聞く。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員	魯　諍		
第2回	第1セクション(第2～4回)メディアの市場化メディア制度の変容 第2回 中国の大衆紙の急成長とその問題点について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第3回	第3回 メディア融合戦略とメディアの再編について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第1セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員	魯　諍		
第4回	第4回 プレゼンテーション1 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	第2セクション(第5～8) メディアと政治 第5回 中国のメディア管理体制と変容について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第6回	第6回 報道規制（内容規制）の実態と変容について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第7回	第7回 中国当局はSNSメディアをどう管理しているかを説明する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	第2セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。（90分）
担当教員	魯　諍		
第8回	第8回 プレゼンテーション2 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第9回	第3セクション（第9～12回）メディアの役割 第9回 突発事件報道について学ぶ 　「SARS報道」と「新型コロナウイルス報道」を比較し、問題点を検討する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第10回	第10回 世論監督（メディアの監視機能） 「焦点訪談」、「新聞調査」などのテレビ番組や、大衆紙の「調査報道」の盛衰について紹介する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第11回	第11回 SNSメディアの急成長とその問題点について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第3セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員	魯　諍		
第12回	第12回 プレゼンテーション3 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第13回	第4セクション 中国の国際報道と対外宣伝 第13回 中国の国際報道に関するメディア政策について説明する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第14回	第14回 中国当局はソフトパワーを高めるために行う「対外宣伝」について説明する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員	魯　諍		
第15回	講義のまとめ:講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員	魯　諍		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度（20%）、文献の報告及び口頭発表（40%）、期末レポート（40%）
その他	0	

教科書

プリントを配布または配信する。

参考文献

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること（出席できない場合、事前に担当教員に連絡すること）。指定する文献には、報告者のみならず参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。

備考欄

無断欠席は必ず減点要素となる。

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　中国語・中国文化コミュニケーション領域						
科目名	中日言語文化特別演習Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	巫　靚						

授業の位置づけ

本講はディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心をもち、そのニーズに応える能力を身につける」ことを追求する科目である。

授業の概要

授業では中国語、日本語をはじめとする漢字圏の言語に焦点を当て、近代以降、ことばと国家の関係について考察し、検討する。

到達目標

①近代以降、東アジア各国における標準語・公用語が生まれる歴史的経緯が総合的に理解できる。
②事例を通して、ことばと国家の関係が説明できる。
③特定のトピックについて文献収集、分析、整理ができる。

授業の方法

この授業は、教員の解説、履修者の口頭発表、口頭発表の内容に基づき検討から構成される。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の授業で質問・感想票の記入を実施し、それに対し教員が回答する。また履修者の口頭発表に対し、授業で適宜コメントとアドバイスを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス	ことばと国家の関係について自分の問題意識を整理する(90分)。	授業のガイダンスを理解し、授業での議論を整理する(90分)。
担当教員	巫　靚		
第2回	村田雄二郎「漢字圏の言語」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第3回	若林正丈「台湾の近現代と二つの「国語」」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第4回	安田敏朗「国語・日本語・帝国」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第5回	平田昌司「しゃべるな 危険：17-20世紀中国の女のことば」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		

第6回	齋藤希史「漢文の命脈：古典文から今体文」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第7回	伊藤徳也「近代中国における文学言語」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第8回	中島隆博「鬼を打つ：白話、古文そして歴史」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第9回	岩月純一「近代ベトナムにおける「漢字」の問題」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第10回	生越直樹「朝鮮語と漢字」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする(90分)。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		

第11回	C・ラマール「地域語で書くこと：客家語のケース（1860−1910）」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする（90分）。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる（90分）。
担当教員	巫　靚		
第12回	都留俊太郎「台湾語 王育徳における大衆と「チャンポン語」」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする（90分）。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる（90分）。
担当教員	巫　靚		
第13回	包福昇「モンゴル語 中ソのあいだで揺れる正書法」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする（90分）。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる（90分）。
担当教員	巫　靚		
第14回	呉永鎬「朝鮮語 失われた「私たちの言葉と文字（ウリマルクァル）」を求めて」	学習予定の研究論文を読み、口頭報告の準備をする（90分）。	学習した内容および授業中の議論を整理し、まとめる（90分）。
担当教員	巫　靚		
第15回	まとめ	今学期学習した内容を復習する（90分）。	授業での議論を整理し、レポートを作成する（90分）。
担当教員	巫　靚		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度（予習、復習など）30% 口頭発表 30% レポート 40%
その他	0	

教科書

『漢字圏の近代』村田雄二郎ほか編、東京大学出版会、2005年。
『生活綴方で編む「戦後史」』駒込武編、岩波書店、2020年。

参考文献

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。
指定された文献は、報告者のみならず履修者全員が事前に熟読する。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　中国語・中国文化コミュニケーション領域						
科目名	中日言語文化特別演習Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	魯　諍						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修得し、言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまな問題に関心を持ち、そのニーズに応える能力を身につける」ことを追求する科目である。前期科目「中国学特殊研究Ⅰ」と関連性を持つ科目である。

授業の概要

この授業は中国メディアの日本に対する報道と中国人の「日本イメージ」の形成との関連性を考察し、検討する。具体的な事例を取り上げつつ、中国メディアによる日本に関する報道の問題点について議論する。合わせて日本メディアによる中国に関する報道にも触れ、比較の視座から、国際ニュース報道におけるメディアの役割を検討し、問題意識を高める。

到達目標

中国メディアの国際報道の問題点について指摘することができる。中国メディアの日本に対する報道の実態について述べることができる。中国人の「日本イメージ」の形成との関連性について説明することができる。

授業の方法

この授業は、担当教員の解説、前もって課題とした文献や配布プリントについての受講者による報告、これまでの授業を踏まえての受講者の口頭発表から構成される。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。口頭発表については事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション ②歴史に見る中国人の日本イメージについて学ぶ。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容を復習し、指示する文献を読むこと。(90分)
担当教員	魯　諍		
第2回	第1セクション(第2～5回)中国メディアの国際ニュース報道の構造 第2回 中国のメディア制度と変容について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第3回	第3回 中国メディアの国際ニュース報道の特性について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		
第4回	第4回 中国メディアの日本に関する報道の特性について学ぶ。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。(90分)	第1セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。(90分)
担当教員	魯　諍		
第5回	第5回　プレゼンテーション1 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯　諍		

第6回	第2セクション（第6～9） 事例研究（マスメディアの日対日報道） 第6回 歴史問題に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第7回	第7回 領土問題に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第8回	第8回 日本の対中経済協力に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第9回	第9回 テレビが伝えた日本のイメージ 中国の映画やドラマの中の日本人のイメージを考察し、分析する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	第2セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。（90分）
担当教員	魯　諍		
第10回	第10回 プレゼンテーション2 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		

第11回	第3セクション（第11～13回）事例研究（ネットメディアと日本イメージ） 第11回 3・11東日本大震災に関する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第12回	第12回 新型コロナウイルスが中国・武漢で感染が拡大する中、日本の自治体などが中国を物資支援する報道の事例を分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。（90分）
担当教員	魯　諍		
第13回	第13回 動画共有サイトおよびエンターテインメントコンテンツのプラットフォーム「Bilibili動画」を取り上げ、日本に関するコンテンツを分析し、議論を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理し、報告の準備をする。（90分）	第3セクションの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。（90分）
担当教員	魯　諍		
第14回	第14回 プレゼンテーション3 履修者は興味を持つテーマについて口頭発表を行う。	プレゼンと議論の準備をすること。（90分）	これまでの講義の内容を振り返り、関心を持つテーマや論点について論理的に説明できるのか検証する。（90分）
担当教員	魯　諍		
第15回	講義のまとめ：講義全体を振り返り、期末レポートの課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。（90分）	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。（90分）
担当教員	魯　諍		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度（20%）、文献の報告及び口頭発表（40%）、期末レポート（40%）
その他	0	

教科書

プリントを配布または配信する。

参考文献

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること（出席できない場合、事前に担当教員に連絡すること）。指定する文献には、報告者のみならず参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。

備考欄

無断欠席は必ず減点要素になる。

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　中国語・中国文化コミュニケーション領域						
科目名	中国語文献翻訳実践演習A					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	巫　靚						

授業の位置づけ

本講はディプロマポリシーに掲げている「各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備える」ことを目指す科目である。「中国語文献翻訳実践演習B」と連携している科目である。

授業の概要

本講は前半では母語、国家語など現在において自明と考えられる概念を問い直し、その決して長くない歴史を確認することを通して、ことばとナショナル・アイデンティティの関係について深く検討する。後半では具体的な事例として、第二次世界大戦後の台湾における「国語（戦後の台湾の場合は中国語を指す）」運動に着目し、戦後台湾の言語政策を概観し、いかなる要因が人々の「国語」決定に影響したのかを詳しく考察する。

到達目標

1.　母語、国家語などの基本概念が把握できる。
2. 事例を通して、ことばとナショナル・アイデンティティの関係について総合的かつ高度な知識が説明できる。
3.　第二次世界大戦後の台湾における言語政策の状況が総合的に理解できる。

授業の方法

本講は担当教員の解説、履修者の口頭発表、そしてそれに基づくグループ議論の形式で進める。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の口頭発表後に、問題点や改善点についてアドバイスを出し、重要なポイントについて議論し、理解を深める。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	田中克彦『ことばと国家』第1、2章：母語とは何か。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第2回	田中克彦『ことばと国家』第3、4、5章：国家語とは何か。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第3回	田中克彦『ことばと国家』第6、7章：方言とは何か。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第4回	田中克彦『ことばと国家』第8、9章：ピジン語・クレオール語の挑戦。	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第5回	菅野敦志『台湾の言語と文字』序章「脱日本化」・「中国化」・「本土化」と戦後台湾の言語・文字政策	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		

第6回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第1章「光復」と脱植民地化の現実	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第7回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第2章 過渡期における国語と方言	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第8回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第3章 台湾に消えたもうひとつの「国語」運動	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第9回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第4章 台湾における「簡体字論争」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第10回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第5章 中華文化復興運動と言語的一元化	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		

第11回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第6章 台湾人と「方言」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第12回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第7章 言語問題の政治家へ	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第13回	菅野敦志『台湾の言語と文字』第8章 「本土化」と「母語」教育	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第14回	菅野敦志『台湾の言語と文字』終章 台湾言語政策史像の再構築	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第15回	まとめ：中国語とは何か。	今学期学んだ内容をまとめる(90分)。	授業中の議論を整理し、レポートを作成する(90分)。
担当教員	巫　靚		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度（予習、復習）30% 授業内口頭発表 30% レポート 40%
その他	0	

教科書

『ことばと国家』田中克彦著、岩波書店、1981年。
『台湾の言語と文字:「国語・「方言」・「文字改革』菅野敦志著、勁草書房、2012年。

参考文献

なし。

履修条件・留意事項等

授業内容に関連する文献を読み、理解を深める。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　中国語・中国文化コミュニケーション領域						
科目名	中国語文献翻訳実践演習B					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	巫　靚						

授業の位置づけ

本講はディプロマポリシーに掲げている「各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備える」ことを目指す科目である。「中国語文献翻訳実践演習A」と連携している科目である。

授業の概要

本講は「漢文」に焦点を合わせ、日中の近代文化交流や日本の近代国家形成の過程、台湾や朝鮮半島に対する植民地経営において「漢文」の果たした役割について詳しく検討すると同時に、「漢文」の東アジア各社会における歴史的な役割、共通点、相違点、さらに現代の中国語教育に与える影響を明らかにする。より広い視野で漢字圏の可能性について考察する。

到達目標

1. 近世(安土桃山・江戸時代)から近代(明治時代以降)において「漢文」が東アジアの国際交流、日本の近代国家形成、植民地統治に果たした役割について説明できる。
2. 漢文が現代の中国語教育に与える影響が総合的に理解できる。
3. 特定のトピックに関する資料の収集、分析、要約ができる。

授業の方法

本講は担当教員の解説、履修者の口頭発表、そしてそれに基づくグループ議論の形式で進める。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の口頭発表後に、問題点や改善点についてアドバイスをし、重要なポイントにおいては議論し、理解を深める。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①ガイダンス ②「近代日本と漢文教育」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第2回	町泉寿郎「漢文教育の近世・近代」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第3回	平崎真右「近代日本の教育制度と「漢文」」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第4回	町泉寿郎「二松学舎の歴史から見る近代漢文教育の変遷」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第5回	川邉雄大「漢文教科書に見る咸宜園関係者の漢詩文採録について」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		

第6回	菊地隆雄「昭和期戦前の漢文環境」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第7回	川邉雄大「外地の「漢文」教科書について:台湾を例として」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第8回	白柳弘幸「台湾総督府発行『漢文教科書』と漢文科設置」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第9回	白柳弘幸「台湾公学校漢文科と本島人教員」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		
第10回	川邉雄大「戦前期台湾における日本人漢文教師の足蹟」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　靚		

第11回	朴暎美「韓国における近代的漢学専門高等教育機関と支那哲文学科」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第12回	張三妮・町泉寿郎「日韓併合前後の漢文教育」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第13回	朴暎美「一九三〇年<『新編 高等朝鮮語及漢文読本』の改編要望件>について」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第14回	張三妮「伊沢修二の清末中国教育に関する言説と出版活動」	学習予定の内容を予習する(90分)。	授業中の議論を整理し、まとめる(90分)。
担当教員	巫　覩		
第15回	まとめ	今学期学んだ内容をまとめる(90分)。	授業中の議論を整理し、レポートを作成する(90分)。
担当教員	巫　覩		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度（予習、復習など）30% 口頭発表 30% レポート 40%
その他	0	

教科書

『近代東アジア漢文教育の研究Ⅰ　日本統治下の台湾・朝鮮と漢文教育』町泉寿郎編、戎光祥出版、2023年。

参考文献

なし。

履修条件・留意事項等

授業内容に関連する文献を読み、理解を深める。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　日本語・日本文化コミュニケーション領域						
科目名	日本語学特殊研究Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めて、各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。「日本語学特殊研究Ⅱ」「日本言語文化特殊演習」および他の語学系科目と関連をもつ。具体的には、本科目で言語学の基礎を学び、「日本語学特殊研究II」で日本語学の基礎を学ぶ。

授業の概要

日本語の特質を知るためには、その理論的背景を元に、実際の使用を観察するとともに、他言語との比較をおこなうことが重要である。本授業では窪薗晴夫[編著] 2019『よくわかる言語学』(ミネルヴァ書房)を読みながら日本語学の基本事項を講義するとともに、それを元に実際の使用および他言語との比較を試みる。

到達目標

1. 言語学についてひととおりの基本事項をおさえるとともに、観察と比較を通じてそれらを有機的に関連づけることができる。
2. 教科書等に出てくる術語について主体的に調べ、説明することができる。
3. 教科書等を批判的に読み、曖昧な記述を指摘し、適切な反例を挙げることができる。

授業の方法

事前にしっかりと教科書を読み込み、不明部分についてはそれぞれがしっかりと事前学習して来ることを前提にした授業を行う。板書・教科書が中心であるが、常に教員から受講生に問いかけ、受講生がそれに答えるという問題解決学習・調査学習形式をとる。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
課題発表をもとに授業を組み立てるため、授業中にコメントや評価、学修に際しての注意点の指導等を細かく行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	言語学の概要 教科書序章「言語学とは何か」	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第2回	音声・音韻(1) 教科書 1「音声・音韻」pp14-29:母音と子音、母音の有標性、音声素性と母音融合、子音の発音、子音の有標性、音素と異音、連濁とライマンの法則、連濁と形態音素交替	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第3回	音声・音韻(2) 教科書 1「音声・音韻」pp30-45:モーラの役割、音節構造(日本語・英語)、語の韻律構造、アクセントの類型、アクセントの規則、音韻構造と統語・意味構造、リズム	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第4回	形態論(1) 教科書 2「形態論・語形成」pp46-55:複雑語のまとまり、複雑語の構造、語形成の生産性と心内辞書、規則活用と不規則活用、新しい動詞の作られ方	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第5回	形態論(2) 教科書 2「形態論・語形成」pp56-63:複合名詞の意味、動詞由来複合語、派生名詞の多義、語のまとまりを超える語形成	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		

第6回	生成文法(1) 教科書 4「生成文法」pp86-91:統語論とは何か、文の構造、文の構造と「移動」	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第7回	生成文法(2) 教科書 4「生成文法」pp92-97:移動の制約、繰り上げ構文、繰り上げ構文とコントロール構文	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第8回	認知言語学・日本語文法(1) 教科書 5「認知言語学・日本語文法」pp98-105:全称量化と存在量化、世界のデフォルト状態、事物のカテゴリ化、文法化	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第9回	認知言語学・日本語文法(2) 教科書 5「認知言語学・日本語文法」pp106-113:デキゴト表現、きもちの文法、体験と知識、並列標識の偏った現れ	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第10回	歴史言語学(1) 教科書　7「歴史言語学」pp134-137:動詞の活用、動詞の複合	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		

第11回	歴史言語学(2) 教科書 7「歴史言語学」pp138-143:主格助詞「が」、使役文、丁寧語	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第12回	方言・社会言語学 教科書 8「方言・社会言語学」pp144-153:地域方言、社会方言、言語接触、スタイル、インターアクション	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第13回	心理言語学 教科書 9「心理言語学」pp154-169:音素の特定・モーラの切り出し、多義性とガーデンパス、文法の個別性と文処理装置の普遍性、文処理で使われる情報いろいろ、音のきまりの獲得、語の獲得、文法の獲得、第二言語の獲得	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第14回	言語類型論(1) 教科書 11「言語類型論」pp182-187:語族・類型・文字、言語普遍性、語順類型論	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		
第15回	言語類型論(2) 教科書 11「言語類型論」pp188-191:アラインメント、意味類型論	教科書の該当箇所を事前に読み、疑問点があった場合には調べておく(90分)	講義内で指示した項目について各自で調べて理解する(90分)
担当教員	小西　正人		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(50%)、質疑応答(30%)、課題提出(20%)、いずれも授業の理解度を含む。
その他	0	

教科書

よくわかる言語学／窪薗晴夫[編著]／ミネルヴァ書房

参考文献

明解言語学辞典／斎藤純男ほか[編]／三省堂

履修条件・留意事項等

初回から教科書を使用しますので、受講予定者は早めに購入して事前に目を通しておいてください。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　日本語・日本文化コミュニケーション領域						
科目名	日本語学特殊研究Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

研究科本専攻の教育課程方針に基づき、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、かつ各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。「日本語学特殊研究Ⅰ」および各語学系科目と関連をもつ。

授業の概要

日本語学の文構造の特色である「階層構造」について理解を深めるため、衣畑智秀編 2019『基礎日本語学』(ひつじ書房)を読み進める。講義形式で内容について簡単な講義をしたのち、そこで扱ったキーワード等について受講者はさらに深く調査し、発表を行う。また関連する論文等を紹介し、適宜授業内で解説する。

到達目標

1. 日本語学の基礎的事項について理解し、説明・応用できる。
2. 文献を批判的に読み、記述が曖昧であるところを指摘し、また記述内容に対する類例および反例を指摘することができる。
3. 日本語教師となる場合に受ける可能性のある語学的質問(歴史を含む)に適切に対処・説明できる。

授業の方法

おもに板書を中心に、講義形式、および発表方式で授業を行う。
また適宜理解度確認の質疑応答等を設け、受講者の理解を確認する。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
授業での担当箇所発表時に適宜、口頭にて指導を行う。また授業内レポート等の課題については、詳細にコメントをつけて直接返却する（口頭コメントを含む）。さらに適宜確認テストを行い、理解度を確認する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション 教科書の説明、および簡単なガイダンスを行う。	各受講者の受講動機と研究テーマを尋ねますので準備しておいてください（90分）	授業内容を整理し、不明部分は確認する（90分）
担当教員	小西　正人		
第2回	教科書第1章「現代日本語の音声と音韻」その1 現代日本語の音声について、音声学を中心に学び、用語等を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する（90分）	授業内容を整理し、不明部分は確認する（90分）
担当教員	小西　正人		
第3回	教科書第1章「現代日本語の音声と音韻」その2 前回の授業と対比し、音素やアクセント等について理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する（90分）	授業内容を整理し、不明部分は確認する（90分）
担当教員	小西　正人		
第4回	教科書第2章「音韻の歴史変化」 日本語の音韻の歴史変化について、基礎知識とその流れを理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する（90分）	授業内容を整理し、不明部分は確認する（90分）
担当教員	小西　正人		
第5回	教科書」第3章「現代日本語の文法」 現代日本語の文法について、形態論・統語論・意味論・語用論という観点から概略を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する（90分）	授業内容を整理し、不明部分は確認する（90分）
担当教員	小西　正人		

第6回	教科書第4章「文法の歴史変化」 前回学んだ内容について、その歴史的変遷を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第7回	教科書第5章「現代日本語の語彙」 形態論等と関連させながら、おもに日本語の語彙について理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第8回	教科書第6章「語と語彙の歴史的変化」 前回見た語彙について、その歴史的な変遷をみるとともに、その位置づけを行う。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第9回	予備日(これまでの復習を行う)	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第10回	教科書第7章「文章論と談話分析」 文章と談話について、教科書の内容を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		

第11回	教科書第8章「文体差と文体史」 文体差と文体史について、教科書に書かれている内容を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第12回	教科書第9章「言葉の変異と諸方言」 変異と方言について、教科書の内容を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第13回	教科書第10章「コーパスと統計」 コーパスと統計について、教科書の内容を理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第14回	教科書第11章「理論的研究とは？」 教科書の実例をもとに、理論的研究の方法について理解する。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		
第15回	教科書第12章「日本語学史」 教科書の内容について学び、追加資料等により学びを深める。	教科書該当部分を読み、不明部分については事前に確認する(90分)	授業内容を整理し、不明部分は確認する(90分)
担当教員	小西　正人		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表（50%）、授業内レポート等の課題（40%）、質疑応答（10%）
その他	0	

教科書

基礎日本語学／衣畑智秀編／ひつじ書房

参考文献

明解言語学辞典／斎藤純男・田口善久・西村義樹編／三省堂
明解日本語学辞典／森山卓郎・渋谷勝己編／三省堂

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　日本語・日本文化コミュニケーション領域						
科目名	日本言語文化特別研究					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

研究科本専攻の教育課程方針に基づき、各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、また言語・文化に関する総合力を身につけ、国内外のさまざまなニーズに応えることができるようになるための科目である。この科目は「日本語学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」を発展させた演習科目であると同時に、他の言語関係の諸科目と関連をもつ。

授業の概要

この講義では言語一般の特徴である「構造依存性」について学ぶ。そのために生成文法入門書であるHaegeman2006を講読し、文の階層構造とその意義について学ぶ。ここでは英語について学ぶが、仮説演繹的に論証する論証法になじむことも目的とする。また後半は言語学的観点からの日本語を取り上げ、受講者同士で論じる。授業では日本語の「使い分け」用法のレベルではなく、より原理的な視点からの考察を予定している。

到達目標

1. 言語の構造依存性について理解し、説明できる。
2. 主張に対する実証的な論証を理解し、自ら構成できる。
3. 英語および日本語について、文法範疇とその具体的なあらわれ、および階層構造性を理解し、他の例に応用できる。

授業の方法

教科書を中心に、板書（必要に応じてパワーポイント）により授業を進める。
はじめは講義形式で行うが、基本的には受講者の輪読・発表方式（演習方式）で進める。
適宜理解度テストを実施し、理解度を確認する。

ICT活用

メール等を活用し、授業補完情報（インターネットサイトなど）を報告したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
適宜行う確認小テストはその場で採点して返却し、理解が不十分であると思われる箇所は説明する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 言語の構造依存性について：言語の有限性と無限性を学修する。はじめて聞いた文でも意味がわかるのはなぜかということについて、簡単に説明する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		
第2回	Haegeman2006: Ch.1.1「言語の科学的研究」について 言語学で扱われる論証方法について、「科学的」というタイトルの名の下に論証方法を学修する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		
第3回	Haegeman2006: Ch.1.2-3「言語データと一般化」について 言語学で扱われるデータとその一般化について、特に第2節の英語データの一般化について丁寧に学修する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		
第4回	Haegeman2006: Ch.1 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		
第5回	Haegeman2006: Ch.2.1「文・動詞句の構造」について(その1) 動詞句の構造について示唆する実証的なデータを挙げ、構造を決定していく。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		

第6回	Haegeman2006: Ch.2.2「文・動詞句の構造」について（その2） 文・動詞句の構造についての理論的な要請について考察を行う。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ（予定）について尋ねますので、準備しておく（90分）	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う（90分）
担当教員	小西　正人		
第7回	Haegeman2006: Ch.2.3「指定部」について 名詞句の構造を併せて考察し、動詞句および文の構造を再考する。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ（予定）について尋ねますので、準備しておく（90分）	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う（90分）
担当教員	小西　正人		
第8回	Haegeman2006: Ch.2 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ（予定）について尋ねますので、準備しておく（90分）	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う（90分）
担当教員	小西　正人		
第9回	Haegeman2006: Ch.3.1「助動詞のない文の構造」について 助動詞のない文の構造について、前章までの知見と方法を運用してさらに考察を行う。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ（予定）について尋ねますので、準備しておく（90分）	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う（90分）
担当教員	小西　正人		
第10回	Haegeman2006: Ch.3.2-4「文構造の理論的説明」について 助動詞のない文の構造についての理論的な要請および概念について、導入と考察を行う。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ（予定）について尋ねますので、準備しておく（90分）	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う（90分）
担当教員	小西　正人		

第11回	Haegeman2006: Ch.3 練習問題 練習問題を通じて本章の理解度を測り、学習事項を定着させるとともに、次章に備える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		
第12回	日本語の階層構造について 南不二夫の提唱した日本語の階層構造についての文章を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		
第13回	日本語の階層構造について 日本語の副詞(節)に関する論文(野田尚史2013「日本語の副詞・副詞節の階層構造と語順」)を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		
第14回	日本語の階層構造について 日本語の名詞修飾に関する論文(益岡隆志2013「名詞修飾節と文の意味階層構造」)を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		
第15回	日本語の階層構造について 日本語の用言複合体について書かれた著作を読み、日本語の階層構造について考える。	授業内で各受講者の受講動機と論文テーマ(予定)について尋ねますので、準備しておく(90分)	授業で学修した項目を復習し、定着させる。講義内で指示があった場合はそれに従う(90分)
担当教員	小西　正人		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での発表(30%)、理解度確認小テスト(30%)、授業内レポート等の課題(20%)、質疑応答(20%)
その他	0	

教科書

Thinking Syntactically. A Guide to Argumentation and Analysis./Liliane Haegeman/Blackwell Publishing

参考文献

授業内で適宜指示する。

履修条件・留意事項等

テキストは英文なので、英文を適切に読み日本語でまとめられることが条件となる。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　日本語・日本文化コミュニケーション領域						
科目名	日本語教育学研究Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	小西　正人						

授業の位置づけ

国際社会で活躍する日本語教員志望者および現職日本語教師のための外国語教授法理論の探求とより高度な実践方法を研究し、専門的な知識および技能を身につけるための科目である。各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修め、かつ各領域の主要言語に関する高度な語学力・応用力などの言語運用能力を備えるための科目である。他の「日本語教育学研究」科目、および「日本語学特殊研究」科目と並行して学び、日本語知識を深めながら実践へと発展させる。

授業の概要

外国語としての日本語を学ぶために、世界の他の言語を学びながら、実践的に理解する。具体的には授業計画に記されている言語を初級から学び、日本語（および受講者の母語）との比較を常に行いながら各言語および日本語を理解し、教授する際の知識としてこれらのことを修得する。

到達目標

1. 各言語の初級文法知識を身につけ、使用できる。
2. それらの方法を用いて他の未習言語の振る舞いを予測できる。
3. 各言語の発音法に応じて発音ができる。
4. 世界の言語について一定程度の配慮ができる。

授業の方法

板書・配布資料・視聴覚メディアを活用しながら、講義形式で進める。ただし毎回の課題および発音、会話の各受講者の理解度を毎時間確認し、徹底的に身につけてもらう。

ICT活用

Google Workspaceに付属している機能（Google Formなど）によって練習問題等を提供し、課題および自主学習を促す。またGoogle Classroomにて参考資料や参考HPを紹介したり、補足資料などを随時提供する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法			
課題は基本的にはコピーを提出してもらい、授業内で問題点を共有しつつ自己チェックで各自の問題点を自発的に見つけてもらう。小テストは可能な限り翌週に返却し、課題提出と併せて詳細な解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション・イントロダクション 授業の進め方、評価方法、心がまえなどについて説明。 世界の言語：世界の言語はどのようにして分かれたのか、どれが兄弟・親子関係にあるのかについて。 フランス語(1)：アルファベットと発音、名詞と冠詞について学修する。 韓国語：ハングルの形成法、基本母音字10個を学修する。	自分の外国語学習を振り返り、学習困難であったときの要因を振り返る(90分)	フランス語の名詞と冠詞について、およびハングルの基本母音字について復習(180分)
担当教員	小西　正人		
第2回	※以下、各言語について会話文を覚えるほど発音練習してもらいます。 フランス語(2)：人称と動詞変化(活用)について学修する。 韓国語：基本母音字の復習、子音字(가・나・다・라・마・바・사)を学修する。 アイヌ語：言語背景、文字と発音、およびあいさつ言葉などの紹介。	フランス語の人称変化に関する資料を配布あるいは周知するので読んでおく(60分)	フランス語の人称変化に関する練習問題、および韓国語の基本母音字・子音字(가・나・다・라・마・바・사)の練習問題(120分)
担当教員	小西　正人		
第3回	フランス語(3)：所有形容詞、指示詞について学修する。 韓国語：その他の基本子音字を学修する。 アイヌ語：会話に挑戦！第1課「これはギョウジャニンニク？」	韓国語の子音字(平音)を復習してすぐに読めるようにしておく(30分)	フランス語の所有形容詞および指示詞に関する問題、韓国語の基本子音字に関する課題(150分)
担当教員	小西　正人		
第4回	フランス語(4)：人称代名詞(対格・与格)、形容詞について学修する。 韓国語：激音、濃音を学修する。そろそろ韓国語会話にも挑戦する。 アイヌ語：会話に挑戦！第1課復習。	韓国語の基本子音字について復習(30分)	フランス語の試験準備、および韓国語の会話暗誦(180分)
担当教員	小西　正人		
第5回	フランス語筆記・会話テスト 韓国語：合成母音字を学修する。引き続き韓国語会話に挑戦。	フランス語筆記テストの準備(120分)：事前に昨年のテストを配布します。	フランス語のテスト問題を解く(150分)
担当教員	小西　正人		

第6回	ドイツ語(1):発音および名詞(性および主格)について学修する。 韓国語:パッチムを学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第2課「カラスはトウモロコシを食べる」	韓国語会話練習(30分)	ドイツ語会話を覚える。これまで学んだハングルを確実に覚える(150分)
担当教員	小西　正人		
第7回	ドイツ語(2):人称および動詞変化について学修する。 韓国語:ハングル発音テストプリントの説明、解説。 アイヌ語:会話に挑戦！第2課復習。	ハングルの復習(30分)	ドイツ語の人称変化に関する課題、およびハングル発音テストプリントの復習(150分)
担当教員	小西　正人		
第8回	ドイツ語(3):冠詞と格について学修する。 韓国語:指定詞이다、助詞는/은について学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第3課「どこから来たの？」	ハングル発音テストの準備(60分)	ドイツ語の冠詞・格・人称代名詞に関する練習問題(150分)
担当教員	小西　正人		
第9回	ドイツ語・総復習時間(主に人称代名詞について) 印欧語について(文字・分布・特徴など)学修する。 韓国語:아니다、助詞가/이を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第3課復習。	ドイツ語筆記テストの準備(150分)	ドイツ語のテスト準備、および韓国語指定詞の練習問題(120分)
担当教員	小西　正人		
第10回	ドイツ語筆記・会話試験 韓国語:存在詞있다、助詞에を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第4課「あなたのお名前は？」	ドイツの試験準備(150分)	ドイツ語試験問題を持ち帰って改めて解く(150分)
担当教員	小西　正人		

第11回	アラビア語(主に文字)について簡単に紹介。 韓国語:練習問題をやりながら総合復習。 アイヌ語:会話に挑戦！第4課復習。	韓国語の復習(30分)	アラビア語の文字練習・会話練習、韓国語の復習・会話練習(150分)
担当教員	小西　正人		
第12回	スワヒリ語(1):文字と発音、人称・時制・アスペクトについて学修する。 韓国語:합니다体、関連助詞を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！(その5)	スワヒリ語について事前調査(30分)	スワヒリ語練習問題、韓国語練習問題(150分)
担当教員	小西　正人		
第13回	スワヒリ語(2):名詞クラスについて学修する。 韓国語:数字、およびさまざまな助詞を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第5課「働いて手が痛い」	スワヒリ語について事前学習(30分)	スワヒリ語および韓国語練習問題(150分)
担当教員	小西　正人		
第14回	スワヒリ語(3):総合復習、会話練習 韓国語:総復習 アイヌ語:会話総復習	韓国語の数字を暗誦(30分)	スワヒリ語テストの準備(180分)
担当教員	小西　正人		
第15回	スワヒリ語テスト、および解説等	テスト準備(180分)	テスト問題解答(60分)
担当教員	小西　正人		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト(筆記および会話暗誦)、授業内の課題(ハングルテスト含む)、授業参加度による総合評価を行う。
その他	0	

教科書

適宜、講義プリントを配布します。

参考文献

白水社「言葉のしくみ」シリーズ
ビジュアル版世界言語百科／ピーター・K・オースティン編／柊風社
事典 世界のことば141／梶茂樹他編／大修館書店
The Languages of the World／Kenneth Katzner／Routledge
ニューエクスプレスプラス アイヌ語／中川裕／白水社

履修条件・留意事項等

毎回課題が出ます。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　日本語・日本文化コミュニケーション領域						
科目名	日本語教育学研究Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

日本語・日本文化コミュニケーション領域における外国語としての日本語の教育方法を教材分析や副教材作成を通してに学ぶ科目である。日本語教育に必要な専門的な教授法や言語知識のほか、文化背景を含めた日本語運用の効果的な指導方法を考えていく(知識・技能)。
「日本語教育学演習Ⅱ」と併せて履修することで、実践的教育方法の研究につながる。

授業の概要

この授業では、経験の浅い日本語教師または初めての日本語教育に欠かせない日本語教授法の基礎を確認しつつ、タスクベースや教育内容重視の教授法を学び、学習目的に合わせたコースデザインが作れるようにしていく。また、実践的教員育成を目的として、初級・中級レベルの副教材作成とその演習・評価をしながら、教師の自己研鑽となるアクションリサーチ方法を身に付けていく。

到達目標

1. コースデザインとはなにか、具体的に説明できる。
2. 学習者の日本語能力レベルがある程度評価できる。
3. 学習ニーズや目的に合わせた教科書や副教材が選択できる。
4. 学習項目定着のための効果的な練習が提供できる。

授業の方法

教育方法の講義とその部分的学習項目に焦点を当てた模擬授業を行い、その振り返りで自己評価および受講者動詞の意見交換をして、授業改善を考えていく。課題の副教材作成については、受講生どうしが協働して作成し、授業内で公開・発表していく。

ICT活用

Google Classroomを使って、授業資料の配信、課題提示と返却を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法			
課題は次回授業までに、個別コメントを添えて返却する。優れた課題は講評とともにクラス内で共有する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	多様な日本語学習ニーズを知る 国内外で学ぶ日本語学習者と日本語教師の現状	図書館で、クラス授業で教師が「使いやすい」と思う初級の日本語教科書を1冊選んでおく(90分)	海外でよく使われている日本語教科書と副教材を調べておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第2回	コースデザインの作り方 学習者のニーズ調査から教科書選定、授業時間数と達成目標、各自が選択した教科書を使って30時間の初級コースデザインを試作する。	学習者にとって「使いやすい」「学びやすい」と思う初級の日本語教科書を1冊選び、よく読んでおく(120分)	選択した教科書1冊分のおおまかなコースデザインを作っておく(150分)
担当教員	岡本　佐智子		
第3回	日本語の動詞活用 日本語学習者が苦手とする動詞活用に焦点を当て、その具体的な導入と教え方を先行研究文献を読んで、実際に演習してみる。	市販の初級教科書の巻末ページから、日本語文法の各活用表をまとめ、その練習方法を考えておく(90分)	ローマ字を用いた語幹とその活用ルールが説明できるようにしておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第4回	第二言語の習得と臨界期 臨界期仮説と敏感期から、言語の条件付け学習（行動主義）に基づいた教授法を体験する	初級文法ルールの指導方法のいろいろを動画サイトで最小3例見て、その特徴をレポートにする（150分）	第二言語習得理論にもとづく文法項目の練習方法のポイントをまとめておく（30分）
担当教員	岡本　佐智子		
第5回	日本語の動詞活用提示とその練習方法Ⅰ 受身文の作り方とそのドリル方法を模擬授業する	受身形の作り方とその練習の教案と模擬授業を作成する（140分）	動詞の分類方法をまとめ、コミュニカティブな練習方法を考えておく（50分）
担当教員	岡本　佐智子		

第6回	日本語の動詞活用提示とその練習方法Ⅱ 「て形」導入と定着練習の模擬授業を行い、受講生どうしで授業評価を行って改善していく	模擬授業の準備をしておく(120分)	「て形」定着のための副教材を作成しておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第7回	日本語の文型 受身形と授受表現の定着練習方法 初級と中級の語彙比較	初級語彙・中級語彙の語彙レベルとその語彙を読んでおく(90分)	授受表現の副教材を作成しておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第8回	日本語能力試験の語彙レベル N5からN1までの文法項目・語句のレベル分け	日本語能力試験問題集をN1からN3まで最小1冊を解いてみる(120分)	国際交流基金の日本語教育サイトを見て、日本語能力レベルの分類基準をまとておく(60分)
担当教員	岡本　佐智子		
第9回	日本語能力の測定 タスク課題やインタビューで何をどう測定するか	日本語能力試験問題集N5からN3までの語彙を確認しておく(120分)	N3とN4レベル学習者へのティーチャートークを作成しておく(60分)
担当教員	岡本　佐智子		
第10回	評価と試験 評価の種類と目的別試験の分類	相対評価と絶対評価の特徴を調べ、具体例を記した一覧表を作成しておく(120分)	試験の種類と試験問題例をまとめておく(60分)
担当教員	岡本　佐智子		

第11回	初中級レベルとは 初級後期から中期移行期の問題点	中級テキストを1冊選び、第1課（またはUnit 1）から3課までの新出語彙リストを作成する（90分）	初級レベルで未定着度の高い学習項目と、プレ中級に必要な語彙・漢字語をリストアップしておく（90分）
担当教員	岡本　佐智子		
第12回	中級レベルにおける会話指導 会話指導目標の設定	「言語使用の適切さ」について調べておくこと(90分)	「言語操作」の種類とその具体例をレポートにする(120分)
担当教員	岡本　佐智子		
第13回	中級レベルにおけるメディア教材 ドラマ、ニュースを教材として	日本語中級レベル学習者に教材として使いたいニュース映像やテレビドラマ（動画）を1つ選び、そのスクリプト3分間分を作成しておく（150分）	スピーチ指導に効果的なレアリア教材を一つ探し、その使い方を提案できるようにしておく（60分）
担当教員	岡本　佐智子		
第14回	中上級レベルにおける読解教材 精読と速読	生活の中で身近な読解教材を5つ以上採取しておく（90分）	タスクリーディングの教え方に関する事例動画観察または実践報告書を読んでおく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第15回	まとめ 教材と教授法の選択と学習定着のための副教材の見直し	指定する学習項目の副教材を作成し、それを使った模擬授業の準備をしておく（150分）	作成した副教材の修正・加筆をして提出する（60分）
担当教員	岡本　佐智子		

成績評価の方法

区分	割合（%）	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題プレゼンテーション（模擬授業等）60％、副教材作成40％
その他	0	

教科書

図書館で、市販の日本語教科書を各自選択する。

参考文献

「日本語教育の参照枠 報告」文化審議会国語分科会、文化庁サイト。『日本語教育への道しるべ 第3巻 ことばの教え方を知る』近藤有美・水野愛子編、凡人社。『テストを作る』関正昭・平岡史也編、スリーエーネットワーク。このほか授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	言語文化コミュニケーション・コース　日本語・日本文化コミュニケーション領域						
科目名	日本語教育学演習Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	岡本　佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、日本語教育職を目指す学生に欠かせない「日本語・日本文化コミュニケーション領域」科目群の一つで、理論の「日本語教育学研究Ⅱ」と併せて履修することを勧める。日本語の教育に関する専門的な知見を活かし、その実践力を身に付けるため、日本語教育方法の理論的・実践的知見を習得しながら、自らの実践と研究に活用できることを目指している。（知識・技能）

授業の概要

この授業では、日本語教育の実践またはその研究において欠かせない日本語教育の実際を、模擬授業やミニ演習（デモンストレーションやドリルプレゼンテーション）等を行うことで自律的教育研究姿勢を図っていく。模擬授業の振り返りは録画を見返しながら自己評価や受講者どうしで相互評価を行い、教育方法の改善につなげていく。

到達目標

1.「日本語教育参照枠」が理解できる。
2.「日本語教育スタンダード」教科書を活かした授業教案が書ける。
3. 教科書の練習問題を補完する練習教材がつくれる。

授業の方法

実践的な日本語教育を目指し、ほぼ各回で指定の学習項目に関するプレゼンテーションや模擬授業を行い、授業後は受講生どうしの相互評価することで、授業改善につなげていく。

ICT活用

受講生はGoogle Classroomに課題や模擬授業前に教案を投稿する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法			
課題はすべて次回までに個別コメントを添えて返却する。模擬授業教案については、授業前指導が必要なことから、できるだけ早くGoogle Classroomで返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	海外における日本語教育の現状と課題 教科書分析による選定と学習者	国際交流基金サイトで、最新の「海外における日本語教育の現状」を読んで、前回調査と比べて変化した事項を調べておく(90分)	海外で使用されている言語別教科書を読み、学習ニーズを分析しておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第2回	「スタンダード」日本語とは 何をどう教えるか、何ができるようになるかを教科書で分析する	国際交流基金サイトで最新の『JF日本語教育スタンダード 新版 利用者のためのガイドブック』を読んでおく(150分)	JFスタンダードに基づいた教科書を探しておく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第3回	「日本語教育の参照枠」からⅠ 生活分野別の日本語教育 日本語能力測定：JFT-BasicとJLPT	文化庁サイトで最新の『日本語教育の参照枠 報告』をひととおり読んでおく(150分)	生活分野別の言語能力記述文をよく読んでおく(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第4回	「日本語教育の参照枠」からⅡ 外国人就労（特定技能）者のための日本語教育	日本の外国人労働者数の受入れ動向と職種傾向を調べておく(60分)	外国人就労者のための日本語教育の現状をレポートする(150分)
担当教員	岡本　佐智子		
第5回	初級A2レベル 「話すこと」の模擬授業と振り返り	模擬授業用の教案を作成しておくこと(120分)	教案を修正・加筆して、清書したものをファイリングしておく(60分)
担当教員	岡本　佐智子		

第6回	初級A2レベル 「聞くこと」の模擬授業と振り返り	模擬授業用の教案を作成しておくこと(150分)	教案を修正・加筆し、ファイリングしておくこと(30分)
担当教員	岡本　佐智子		
第7回	初級A2レベル 「やり取り」の模擬授業と振り返り	模擬授業用の教案を作成しておくこと(150分)	教案を修正・加筆し、ファイリングしておくこと(30分)
担当教員	岡本　佐智子		
第8回	初級A2レベル 「読むこと」の模擬授業と振り返り	400字程度の読解教材を選定して教案を作成する。語彙リストも学習者に配布できるようにしておく(150分)	読解教材の適切さやタスク等、模擬授業の振り返りのレポートを書く(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第9回	初級A2レベル 「聞くこと」模擬授業と振り返り	模擬授業の教案を作成しておくこと(120分)	教案を修正・加筆してファイリングしておくこと(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第10回	初級 A1-A2レベル 「話すこと」模擬授業と振り返り	模擬授業の教案を作成しておくこと(120分)	教案を修正・加筆し、ファイリングしておくこと(60分)
担当教員	岡本　佐智子		

第11回	初級A1-A2 レベル 発音指導の方法	日本語の音声特徴について調べておくこと(90分)	母語話者別の音声指導の方法をレポートにする(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第12回	初級B1.1レベル 「読むこと」の模擬授業と振り返り	800字以内の新聞記事や出来事ニュース原稿を準備し、教案にしておく(150分)	教案を改善しておく(30分)
担当教員	岡本　佐智子		
第13回	初中級 B1レベル 「聞くこと」の模擬授業と振り返り	包括的な聴解教材を図書館で探して、教案を作成しておく(150分)	教案を修正・改善しておく(30分)
担当教員	岡本　佐智子		
第14回	初中級 B1レベル 「話すこと」模擬授業と振り返り	教案を作成しておくこと(150分)	模擬授業の振り返りレポートを作成する(90分)
担当教員	岡本　佐智子		
第15回	中級 B1－B2レベル 「やりとり」模擬授業と振り返り	教案を作成しておくこと(150分)	振り返りレポートを作成する(90分)
担当教員	岡本　佐智子		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業（教案含む）80％、確認テスト20％
その他	0	

教科書

プリントを配布する。
模擬授業教科書は個別に指定するので、図書館で借りておく。

参考文献

『JF日本語教育スタンダード』および『JF日本語教育スタンダード［新版］利用者のためのガイドブック』を国際交流基金日本語国際センターからダウンロード。「日本語教育の参照枠」文化審議会国語分科会、文化庁からダウンロード。「『日本語教育の参照枠』の活用のための手引き」文化庁からダウンロードする。このほか授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	地域コミュニケーション・コース　地域コミュニケーション領域						
科目名	地域活性化システム論					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	木村　俊昭						

授業の位置づけ

地域創生・SDGsの課題とは何かを発見し、グループによる対話から、解決方法を立案のうえ、発表するもの。

授業の概要

地域創生・SDGsの本質とは何か、地域を変える要素は何かなど、様々な角度からの調査研究によるデータ分析や事例の検証実績を持つ外部講師（大学教員、国・自治体幹部、民間専門家等）等による「実学」講義とグループ対話、また、自ら住み暮らすまちの可能性と課題を探究し、現在から未来への展開といったストーリー性を踏まえて、事業構想と発表を実施するもの。

到達目標

グループ対話から発表までで き得る人財養成をするもの。

授業の方法

対面によるもの。外部講師は対面またはオンラインとする。

ICT活用

受講生は、各自PC持参とし、講義資料はペーパレスとする。

実務経験のある教員の教育内容

国内外年間100箇所超の地域現場を回り、最新情報を講義のうえ、第一線の外部講師からの情報を得て、グループ対話するもの。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の講義時に理解度を確認のうえ、質疑の時間を設ける。また、グループ発表時には助言、コメントをするもの。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義全体の説明、地域創生の本質を説明、質疑応答	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第2回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第3回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第4回	受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第5回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		

第6回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第7回	受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第8回	外部講師等の講話、受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第9回	受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第10回	受講生によるグループ対話 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		

第11回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第12回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第13回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第14回	グループ対話、発表資料の作成 地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		
第15回	グループ発表、総評、総括	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度	講義内容の整理、テキスト熟読 90分程度
担当教員	木村　俊昭		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	グループ対話、発表を総合的に評価するもの。
その他	0	

教科書

「地域創生 成功の方程式」木村俊昭（ぎょうせい）
「地域創生の真実」木村俊昭（世音社）

参考文献

随時、講義時に紹介する。

履修条件・留意事項等

第1回目に講義全体の流れ、グループ対話、発表方法等を説明するので必ず出席のこと。

備考欄

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	地域コミュニケーション・コース　地域コミュニケーション領域						
科目名	地域ビジネス特論Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	熊野　稔						

授業の位置づけ

大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている」内容に位置づける。

授業の概要

地域ビジネスとは、地域の課題を解消できるビジネスモデルを言い、5類型に分けて具体的事例を学んでいく。
地域ビジネスモデルを①地域おこし・まちづくり・観光ビジネス、②介護・福祉ビジネス、③環境・農業ビジネス、④ITビジネス、⑤就業支援のビジネスに類型して解説して学習する。
また道の駅や地域運営組織、地域商社、エリアマネジメントなども地域ビジネスの組織論として学習する。

到達目標

地域ビジネスの概念を理解して、先進事例等が説明できる。
地域ビジネスを地域の実情の元に考案できること。

授業の方法

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地域資源活用調査の実績のある大学教員

課題に対するフィードバックの方法			
返却時にレポートや質問への解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	地域ビジネスとは何か 地域ビジネスの概要や体系を理解する	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)	授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。(150分)
担当教員	熊野　稔		
第2回	地域おこし・まちづくり・観光ビジネスモデル 地域資源を事業活動に組み合わせながら、観光や集客につなげる地域ビジネスモデルなどを学ぶ。農山村の地域おこしや都市部の街づくりのビジネスモデル、温泉街等の観光ビジネスモデル等について事例を通して解説し、その効果や課題及び解決方法について議論等を行う。	インターネットでまちづくり・観光ビジネスについて検索して学習する。(90分)	まちづくり・観光ビジネスの考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第3回	介護・福祉ビジネスモデル 高齢者への移動式の買い物サービスや宅配、介護支援、交流や健康など、生活の暮らしをサポートする地域ビジネスモデルなどの先進事例を取り上げ解説し議論を進める。	インターネットで介護・福祉ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(120分)	介護・福祉ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(60分)
担当教員	熊野　稔		
第4回	環境・農業ビジネス 環境保全(リサイクルやエネルギー問題他)や地域特産品の生鮮品を新鮮な状態を保ち、届ける、地元での農産品を販売したい人と購入したい人をつなぐビジネスなどの先進事例を取り上げながら学ぶ。	インターネットで環境・農業ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	環境・農業ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(120分)
担当教員	熊野　稔		
第5回	ITビジネス:オンライン他のシステム開発や、地域ビジネスの支援にクラウドファンディングを活かすなどの事例を取り上げ解説して学ぶ。	インターネットでITビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	ITビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

第6回	就業支援のビジネス 地域の課題解消と事業実現に合わせて、地域の雇用を新しく生み出す支援活動などの先進事例を学習し議論する。	インターネットで就業支援のビジネスを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	就業支援のビジネスについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第7回	道の駅の地域ビジネス その1 全国的な地域振興に貢献している道の駅について、その成り立ち、経緯から現在の特徴まで 解説して、地域課題の解決への寄与、課題解決の方向性などを解説して、議論する。	インターネットで道の駅の特徴と地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	道の駅のビジネスについての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第8回	道の駅の地域ビジネス その2 地域ビジネスを展開する道の駅の経営の在り方、6次産業化、地域・教育貢献も踏まえて先進事例を通して学習する。今後の方向性等について議論を深める。	インターネットで道の駅の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。	道の駅の地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。
担当教員	熊野　稔		
第9回	地域運営組織としての地域ビジネス その1 地域住民が主体となって行政の支援も伴いながら地域課題の解決や地域の持続的発展を目指す地域運営組織について学習し、全国的な先進事例も学び、今後の方向性等を議論する。	インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第10回	地域運営組織としての地域ビジネス その2 地域住民が主体となって行政の支援も伴いながら地域課題の解決や地域の持続的発展を目指す地域運営組織について学習し、全国的な先進事例も学び、今後の方向性等を議論する。 雲南市、庄原市などの先進事例の調査解説も行う。	インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

第11回	地域運営組織としての地域ビジネス その3 地域住民が主体となって行政の支援も伴いながら地域課題の解決や地域の持続的発展を目指す地域運営組織について学習し、全国的な先進事例も学び、今後の方向性等を議論する。 長門市湯本温泉の湯本まち株式会社等の先進事例の調査解説も行う。	インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。
担当教員	熊野　稔		
第12回	地域商社 地域経営会社等の事例 地域商社とは、地域の関係者と協力し、地域資源をブランド化から販売までをプロデュースする組織のこと。資源は農作物や工芸品等で、地域内外に販売している。関連して山口県で行っている地域経営会社についても学習して議論を深める。	インターネットで地域運営組織の特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	地域運営組織の特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第13回	エリアマネジメント その1 エリアマネジメントは、特定地域にて、事業者、地権者、住民等の民間が主体となって、まちづくりや地域経営を積極的に行う取組みを指す。その特徴や先進事例を学習し議論する。	インターネットでエリアマネジメントの特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	エリアマネジメントの特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。 (90分)
担当教員	熊野　稔		
第14回	エリアマネジメント その2 エリアマネジメントについて札幌市の札幌駅前通まちづくり株式会社のエリアマネジメント事例などを取り上げ、その特徴や効果、課題を議論する。	インターネットで札幌市のエリアマネジメントの特徴や運営手法、地域ビジネスの成功例を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	エリアマネジメントの特徴と効果、地域ビジネスについての考え方、手法、運営方法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第15回	全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。	今までの学習の総復習を行う。(90分)	今までの議論をもとに課題レポートを仕上げて提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業参加度(20%)、演習シート等の提出(30%)、全体レポート等(50%)。
その他	0	

教科書

オリジナル資料を配布する。

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

原則すべての出席。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う。

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	地域コミュニケーション・コース　地域コミュニケーション領域						
科目名	地域ビジネス特論Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度後期	区分		単位	2
担当教員	熊野　稔						

授業の位置づけ

大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている」内容に位置づける。

授業の概要

地域ビジネス特論Ⅱでは、地域ビジネス特論1で学んだ知識や技能を活用して、具体的に地域ビジネスモデルを適用できる地域と地域課題を調査選択して解決していく方向性での地域ビジネスモデルを実際に構築していく。アクティブラーニング方式の授業とする。

到達目標

地域ビジネスの概念を理解して、先進事例等が説明できる。実際に地域ビジネスモデルを地域の実情の元に考案できること。

授業の方法

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地方自治体や国家公務員の実績、地域資源活用調査の実績のある大学教員。

課題に対するフィードバックの方法			
返却時にレポートや質問への解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	地域ビジネスの先進事例をもとに学び直し 地域ビジネスの概要や体系を理解して先進事例をもとに学び直し、成功事例について議論を深める。企画書を検討する。	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)	授業の概要を復習し、演習シートに取り組み提出する。(150分)
担当教員	熊野　稔		
第2回	地域ビジネスモデルの適用地域を探索する。その1	インターネットで地域ビジネスモデルの適用地域を探索し、検索して学習する。(90分)	復習して作業を継続し、演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第3回	地域ビジネスモデルの適用地域をさらに深く探索する。その2 地域ビジネスモデルの適用地域をさらに深く探索して、個別指導で相談しながら議論を進める。	インターネットで地域ビジネスモデルの適用地域をさらに深く探索して、地域を絞り込む調査をしておく。	適用地域をほぼ絞り込み、演習シートを提出する。
担当教員	熊野　稔		
第4回	適用地域の現況と動向、地域資源の探索 適用地域が決定後に、人口や土地利用等の現況と動向、歴史、文化、産業、特産品等の地域資源の探索等をネット情報を基本に行う。	インターネットで事前に調査しておく。(90分)	さらに作業の継続を行い、演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第5回	適用地域に類似した地域ビジネスモデルを探索して先行事例調査を実施する。	インターネットで適用地域に類似した地域ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。その1(90分)	類似地域ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

第6回	適用地域に類似した地域ビジネスモデルをさらに探索して先行事例調査を実施する。その2	インターネットで適用地域に類似した地域ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	類似地域ビジネスモデルについて考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第7回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。その1 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員			
第8回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。その2 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第9回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。その3 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第10回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。その4 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 5W1Hは確定し、実施に向けてのフローチャートは完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

第11回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。その5 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書概要を完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第12回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。その6 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書を完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第13回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する。その7 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書と運営手法を完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第14回	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を最終的に企画し発表する。その8 適用地域に見合った地域ビジネスモデルの内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。 全体的な企画書と運営手法、予算想定を完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第15回	全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。	今までの学習の総復習を行う。(90分)	今までの議論をもとに地域ビジネスモデル全体企画書を仕上げて提出する。
担当教員	熊野　稔		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業参加度(20%)、各授業の演習シート等の提出(30%)、全体企画書等(50%)。
その他	0	

教科書

オリジナル資料を配布する。

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

原則すべての出席。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	地域コミュニケーション・コース　地域コミュニケーション領域						
科目名	地域創生・SDGs特論Ⅰ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	熊野　稔						

授業の位置づけ

大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている。」内容に位置づける。

授業の概要

都心部への過度な人口集中を食い止め、少子高齢化や人口減少等で衰退する地方自治体の持続的発展のために、国・企業と一体となって地域経済を活性化しようとする取り組みを「地域創生」とする。また、SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために持続可能でよりよい世界を目指すために掲げた17目標と169ターゲットからなる。この2つの教養や手法、事例を学ぶ。
議論しあうアクティブラーニング方式の授業も取り入れる。

到達目標

地域創生・SDGsの概念や知識を理解して、先進事例等が説明できる。実際に地域創生・SDGsの地域モデルや政策立案を地域の実情の元に考案できること。

授業の方法

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地方自治体や国家公務員の実績、地域資源活用調査の実績のある大学教員

課題に対するフィードバックの方法			
返却時にレポートや質問への解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	地域創生・SDGsとは何か 地域創生、SDGsの定義、経緯、関連性、体系について学び、その課題や方向性なども議論しあう。	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)	授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。(150分)
担当教員	熊野　稔		
第2回	地域創生論 その1 地域創生の政策や全国的な取り組み、先進事例等について解説し、議論等を行う。	インターネットで地域創生、まちづくりについて検索して学習する。(90分)	地域創生、まちづくりの考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第3回	地域創生論 その2 道の駅編 我が国の地域イノベーションとなった道の駅等を解説し議論を進める。	インターネットで道の駅、道の駅の地域ビジネスモデルを検索し、先進事例などを調査しておく。(120分)	道の駅について考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(60分)
担当教員	熊野　稔		
第4回	地域創生論 その3 道の駅の高度化編 道の駅の高度化、災害支援対策などを学び、その方向性等を議論しあう。	インターネットで環道の駅の高度化、災害支援を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	道の駅について考え方、手法、高度化、災害支援などの先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第5回	地域創生における官民連携の取り組み 地域創生を効果的に進めるうえで欠かすことができない、官民連携の取り組みを学習し、議論しあう。PPP事業の体系、PFI事業やパークPFI事業、指定管理者制度などを学びその課題や方向性などを議論しあう。	インターネットで官民連携を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	官民連携事業についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

第6回	SDGsの概要 世界規範となっているSDGsの経緯、目的、内容等の概要を理解してその知識を習得する。また17の目標の先進事例を学習し議論する。	インターネットでSDGsの概要を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	SDGsの概要についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第7回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その1 17の目標と先進事例の概要などを解説して、課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第8回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その2 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第9回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その3 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第10回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その4 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

第11回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その5 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第12回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その6 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第13回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その7 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第14回	SDGsの17の目標と先進事例解説 その8 17の目標と先進事例の概要などを解説して、今後の課題や方向性を議論する。	インターネットでSDGsの17の目標と先進事例の特徴や成功例を検索し、調査しておく。(90分)	SDGsの17の目標についての考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第15回	全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。	今までの学習の総復習を行う。(90分)	今までの議論をもとに課題レポートを仕上げて提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(20%)、各授業の演習シート等の提出(30%)、全体レポート等(50%)。
その他	0	

教科書

オリジナル資料を配布する。

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

原則すべての出席。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う。

2024　北海道文教大学 シラバス

学部・学科	大学院　グローバルコミュニケーション研究科						
区分	地域コミュニケーション・コース　地域コミュニケーション領域						
科目名	地域創生・SDGs特論Ⅱ					ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2024年度前期	区分		単位	2
担当教員	熊野　稔						

授業の位置づけ

大学院の地域コミュニケーション領域におけるディプロマ・ポリシー「各領域が対象とする専門分野に関する専門的な知識および技能を修めている」内容に位置づける。

授業の概要

地域創生・SDGs特論Ⅱでは、地域創生・SDGs特論論1で学んだ知識や技能を活用して、具体的に自治体の総合計画（基本構想、基本計画、実施計画）のオリジナルの改訂版を地域創生・SDGsの考え方を活用して策定する。
アクティブラーニング方式の授業とする。

到達目標

地域創生・SDGsの概念を理解して、先進事例等が説明できる。実際に自治体の総合計画の改訂版を地域創生・SDGsを活用して地域の実情の元に考案できること。

授業の方法

原則、対面方式でオリジナル資料を中心に説明しながら対話や議論を重視して実施する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地方自治体や国家公務員の実績、地域資源活用調査の実績のある大学教員。

課題に対するフィードバックの方法			
返却時にレポートや質問への解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	SDGsを活用した自治体の総合計画改定 その1 いくつかの自治体の総合計画をダウンロードして、学習する。企画書を検討する。	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(30分)	授業の概要を復習し、演習シートに取り組み提出する。(150分)
担当教員	熊野　稔		
第2回	自治体の総合計画改定の適用地域を探索する。その2 住んでいる自治体の総合計画をはじめ、関心の高い自治体を探索して適用地域の議論をする。	インターネットで自治体の総合計画改定の適用地域を探索し、検索して学習する。(90分)	復習して作業を継続し、演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第3回	地域創生・SDGsを活用した自治体総合計画改定の適用地域をさらに深く探索する。その3 地域創生・SDGsを活用した自治体総合計画改定の適用地域をさらに深く探索して、個別指導で相談しながら議論を進める。	インターネットで自治体総合計画改定の適用地域をさらに深く探索して、地域を絞り込む調査をしておく。(120分)	適用地域をほぼ絞り込み、演習シートを提出する。(60分)
担当教員	熊野　稔		
第4回	適用地域の現況と動向、地域資源の探索 適用地域が決定後に、人口や土地利用等の現況と動向、歴史、文化、産業、特産品等の地域資源の探索等をネット情報を基本に行い、課題抽出も検討する。必要に応じて自治体への質問も行う。	インターネットで事前に調査しておく。(90分)	さらに作業の継続を行い、演習シートを提出する。(120分)
担当教員	熊野　稔		
第5回	適用地域に類似した自治体総合計画を探索して先行事例調査を実施する。	インターネットで適用地域に類似した自治体総合計画を検索し、先進事例などを調査しておく。その1(90分)	類似地域の自治体総合計画について考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

第6回	適用地域に類似した自治体総合計画をさらに探索して先行事例調査を実施する。その2	インターネットで適用地域に類似した自治体総合計画を検索し、先進事例などを調査しておく。(90分)	類似地域の自治体総合計画について考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第7回	適用地域の自治体基本構想の改定内容を企画、検討する。その1 適用地域に見合った自治体基本構想の内容を企画、検討して議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の自治体基本構想の内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の自治体基本構想の内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第8回	適用地域の自治体基本計画の改定内容を企画、検討する。その2 適用地域に見合った自治体基本計画の内容を企画、検討して詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の自治体基本計画の内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の自治体基本計画の内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第9回	適用地域の自治体基本計画の内容改定を企画、検討する。その3 適用地域に見合った自治体基本計画の内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の自治体基本計画の内容改定をさらに企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の自治体基本計画の内容改定をさらに企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第10回	適用地域の実施計画の改定内容を企画、検討する。その4 適用地域に見合った実施計画の改定内容を企画、検討して詳細に議論をする。 5W1Hは確定し、実施に向けてのフローチャートは完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画、検討して、。考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

第11回	適用地域の実施計画の改定内容を企画、検討する。その5 適用地域に見合った実施計画の改定内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の改定内容を企画、検討する準備をする。(90分)	適用地域の実施計画の改定内容を企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第12回	適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討する。その6 適用地域に見合った総合計画全体の改定内容を企画、検討して詳細に議論をする。 全体的な企画書を完成させる。	インターネット等の活用で適用地域の地域ビジネスモデルの内容を企画書作成の準備をする。(90分)	適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第13回	適用地域の総合計画全体の改定内容をさらに企画、検討する。その7 適用地域に見合った総合計画全体の改定内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の総合計画全体の改定内容の準備をする。(90分)	適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討して、考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第14回	適用地域の総合計画全体の改定内容を最終的に企画し発表する。発表後に議論を深める その8 適用地域に見合った総合計画全体の改定内容を企画、検討してさらに詳細に議論をする。	インターネット等の活用で適用地域の総合計画全体の改定内容を完成させ発表の準備をする。(90分)	適用地域の総合計画全体の改定内容を企画、検討して考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		
第15回	全体の総括 今までの授業内容の総復習及び知識や情報の確認等も行い話し合いながら今後の方向性の議論を深める。	今までの学習の総復習を行う。(90分)	今までの議論をもとに総合計画全体の改定全体総合計画を仕上げて提出する。(90分)
担当教員	熊野　稔		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(20%)、各授業の演習シート等の提出(30%)、改訂版総合計画等(50%)。
その他	0	

教科書

オリジナル資料を配布する。

参考文献

特になし。

履修条件・留意事項等

原則すべての出席。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う。